

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

平成 23 年度～平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要

1 学校法人名 順天堂 2 大学名 順天堂大学

3 研究組織名 スポーツ健康医科学研究所

4 プロジェクト所在地 千葉県印西市平賀学園台1-1

5 研究プロジェクト名 子どもの健康づくりのためのスポーツ医科学研究拠点の形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
木南英紀	スポーツ健康医科学研究所	所長

8 プロジェクト参加研究者数 80 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
木南 英紀	スポーツ健康医科学研究所・所長	栄養に関する生化学的評価	研究の総括と運動と栄養に関する生化学的評価
内藤 久士	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	生活習慣と体力運動能力評価	体力運動能力の発育発達評価
町田 修一	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	運動効果の運動生理学的評価	筋・呼吸循環機能の適応評価
深尾 宏祐	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	呼吸循環機能の評価	呼吸循環機能の適応評価
櫻庭 景植	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	運動器の障害調査および評価	スポーツ障害とその予防
廣津 信義	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	運動プログラムの数学モデリング	効率的な運動プログラム開発
柳谷 登志雄	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	動きのキネティクスとキネマティクス	スキルのバイオメカニクスの評価
鈴木 良雄	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	スポーツと栄養	栄養と体力評価
広沢 正孝	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	子どものメンタルヘルス	気質とストレスの心理・生物学的評価
田中 純夫	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	子どもの運動と心の発達	心の適応評価マーカー開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

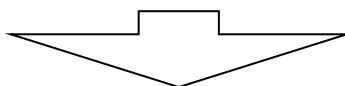
北村 薫	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	社会的サポートシステム	軽度発達障害と不適応
黒須 充	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	生涯スポーツ政策の国際比較	各国の運動ガイドライン調査
長登 健	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	子どもの運動と学校教育	保健体育科教育と教材開発
綿田 裕孝	大学院医学研究科・教授	代謝内分泌	代謝機能の適応評価
清水 俊明	大学院医学研究科・教授	子どもの生活習慣病	代謝機能の適応評価
横山 和仁	大学院医学研究科・教授	子どもの健康と疫学調査	集団検診の統計解析
渡邊 貴裕	スポーツ健康科学部・准教授	小児の保健・看護	小児・障害児の療育環境
(共同研究機関等)			
澤田 亨	国立健康・栄養研究所健康増進部・本学スポーツ健康科学部・客員准教授	運動疫学	運動習慣の疫学的評価
柳原 大	東京大学・本学スポーツ健康科学部・客員准教授	運動学習の発育発達	運動スキルの神経生理学的評価
後藤 佐多良	東邦大学名誉教授・本学スポーツ健康科学研究科・客員教授	加齢の生化学的評価	抗老化関連指標による評価

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
運動効果の運動生理学的評価	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	形本 静夫	筋・呼吸循環機能の適応評価

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



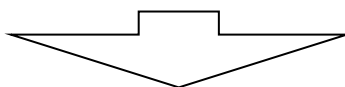
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東海大学体育学部・准教授	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	町田 修一	筋・呼吸器循環機能の適応評価

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
スポーツと栄養	日清ファルマ(株)	鈴木 良雄	栄養と体力評価

(変更の時期:平成 23 年 4 月 1 日)



新

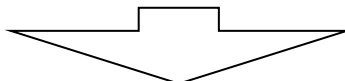
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
日清ファルマ・研究員	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	鈴木 良雄	栄養と体力評価

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
子どもの運動と学校教育	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	今関 豊一	保健体育科教科と教材開発

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



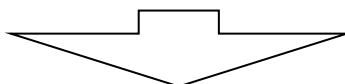
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文部科学省スポーツ・青少年局・体育参事官	スポーツ健康科学部・教授	長登 健	保健体育科教育と教材開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
小児の保健・看護	大学院医療看護学研究科・准教授	西村 あをい	小児の療育環境

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



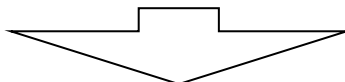
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
スポーツ健康科学部・講師	スポーツ健康科学部・准教授	渡邊 貴裕	小児・障害児の療育環境

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
運動疫学	東京ガス・本学スポーツ健康科学部・客員教授	澤田 亨	運動習慣の疫学的評価

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



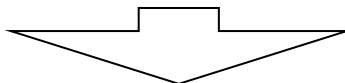
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京ガス・本学スポーツ健康科学部・客員准教授	国立健康・栄養研究所健康増進部・本学スポーツ健康科学部・客員准教授	澤田 亨	運動習慣の疫学的評価

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
子どもの運動と心の発達	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	山岸 明子	心の適応評価マーカー開発

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



新

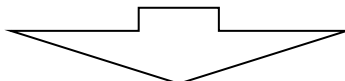
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
子どもの運動と心の発達	スポーツ健康科学部・准教授	田中 純夫	心の適応評価マーカー開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
生涯スポーツ政策の国際比較	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	野川 春夫	各国の運動ガイドライン調査

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



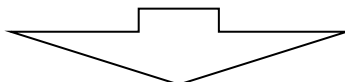
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
福島大学人間発達文化学類・教授	スポーツ健康科学部・教授	黒須 充	各国の運動ガイドライン調査

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
呼吸循環機能の評価	大学院スポーツ健康科学研究科・教授	河合 祥雄	呼吸循環機能の適応評価

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学研究科・助教	大学院スポーツ健康科学研究科・准教授	深尾 宏祐	呼吸循環機能の適応評価

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

世界的規模での肥満やメタボリックシンドロームの増加、それらに伴う様々な慢性疾患の発症、ストレス社会の弊害としてのうつ病の漸増、加齢による筋力低下や骨量減少(骨粗鬆化)に伴う転倒骨折者の増加、さらには高齢化に伴う精神疾患の増加は、個人・家族・地域・国家レベルで課題解決すべき重大な関心事となっている。これらの疾患の発症には、遺伝的素因に加え、個人の生活習慣のあり方が大きく関与している。その一方、適切な身体運動の実施・継続によって、生体の機能や構造に持続性のある能力の拡大(適応)を生じ、運動機能の改善のみならず、メンタル面も含めて多くの疾病に対し予防や治癒効果をもたらすことが知られている。我々も、ハイテクリサーチセンター整備事業(平成17-21年度)の補助を受け、スポーツ健康医科学研究所を拠点に身体運動の有効性に関してその機構解明に関する基礎的な研究と応用プログラムの開発に取り組みに多大な成果を上げてきた。しかし、健康と運動に関するこれまでの研究の多くは、成人以降、特に中高齢者に重点が置かれ、主として生活習慣関連疾病の改善や治療に主眼が置かれた対症的、即効的な成果を求める研究がほとんどである。生活習慣病は、生活習慣の確立に大きな影響を与える発育発達段階に起因すると考えられているにも関わらず、それに対応する基礎的および応用的研究は立ち後れており、現在、学童の体力低下、肥満児増加、未熟な精神発達を持つ青少年の増加、ストレス環境下における適応障害の増加など子どもたちの心と体に関連して解決すべき問題は益々深刻となっている。したがって、幼児期からの広い年齢範囲で子どもたちを対象に、超長期的な視野を持って身体活動・運動を中心に据えながらも多面的にこれらの問題可決に向けた研究に着手することが急務であると思われる。

本プロジェクトでは、疾病予防や改善、および心身の生涯にわたる健康にとって、発育発達期にある子どもたちでの身体運動や生活習慣がどのような影響を与えるのかについて科学的根拠に基づいて研究を行い、運動・スポーツによる子どもの心とからだの健康づくりのための方法論を呈示することで、かかる諸問題に対する根本的な解決に大いに寄与することが期待される。したがって、現在の子どもたちが抱えるところと体の問題を明確にし、効果的な健康・体力づくりを推進するため、介入研究を含む疫学的観点からの研究を展開し、実践的な運動プログラムの開発を行うこととした。また、健康長寿を支えるための発育期における至適運動条件(質と量)についての基礎的研究として、発育期、あるいは継続的に行った様々な運動・トレーニング(内容やタイミング、期間、栄養との組み合わせ等)が、その後のライフステージ(年齢)でどのような影響を与えるのか、実験動物モデルを用いて臓器・器官系統別により詳細な生理生化学的な検討を加えることを特徴とした。

(2) 研究組織

スポーツ健康医科学研究所所長を中核に、からだ(生理生化学・バイオメカニクス要因)と、こころ(心理・社会的要因)の研究班を編制し、さらにその下にサブグループ(体力運動能力・運動生理生化学・バイメカ、スポーツ医学、生活習慣・疫学、基礎実験動物研究、メンタルヘルス、体育指導・学校教育・地域連携、障害・特別支援、社会的サポート)を編成し、それぞれのリーダーの責任のもとに健康づくりの方法論に必要な条件を明確にしたうえで、それらに係る問題点を明らかにするための疫学的研究と実験研究を行った。これらに参加するサブグループでの研究成果は、年1回の定期的な全体報告会を行って集約し、これに基づいて研究目的に沿った研究経過の確認と修正を行うとともに、研究グループ間の連携を図った。また、学内に研究の進捗状況や妥当性を評価する評価委員会を設置し、評価会議(年1回)で討議し、プロジェクトの有効な進展を図った。

本プロジェクトの中心となるスポーツ健康医科学研究所は、大学院スポーツ健康科学研究所の付属研究施設として機能しているが、付属病院をはじめとする他の研究所・研究センタ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

一と共同研究を遂行するためのシステムを確立し、研究者や分析技術、研究対象症例確保等の協力が得られる体制が構築されている。また、アジア・欧米のスポーツ・体育系大学などの学術研究期間との連携も図りつつ研究を推進していくことができる体制を構築している。研究プロジェクトに直接的・間接的に関わる研究者は、大学院スポーツ健康科学研究科所属の教員を中心に、医学研究科、医療看護学研究科所属の教員、スポーツ健康科学研究科大学院博士課程学生、PD・RA 等を加えると全体で約 80 名に達した。なお、このうち、日本学術振興会 PD2 名、DC1 名、本研究所 PD3 名、RA7 名が、各サブグループリーダーのもとで研究に従事している。さらに、外部共同研究者として、運動疫学の研究者等を加え、運動の指針作成に向けた研究の準備体制を構築した。また、研究の進捗状況や妥当性を評価する評価委員会を学外に設置し、プロジェクトの有効な進展を図った。

(3) 研究施設・設備等

本事業の中心となるスポーツ健康医科学研究所は、ハイテクリサーチセンター整備事業（平成 17-21 年度）において整備され、身体運動の有効性の機構解明に関する基礎的な研究と応用プログラムの開発に関する研究を遂行する研究施設・設備が十分に整っている。また、動物基礎研究のための施設設備や、ヒト代謝測定室等も追加で整備されている。さらに、当該研究の遂行にあたり、小児用に特化した等速性筋力測定装置をスポーツ健康医科学研究所内に設置し、筋力発揮に関する発育発達特性を評価するために活用している。また、無拘束性・無線式・多チャンネルで映像信号と同期でき、かつ収録信号の解析に優れた機能を持つ無線式筋電図測定装置によって、種々の筋活動を実際の動きの評価と共に明らかにし、フィールドでの子どもの運動や身体活動のデータの収集を行っている。これらを合わせて本事業で整備された主な研究設備等とその使用状況は、以下の通りである。

装置設備名	購入年度	個数	利用時間
等速性筋力測定システム	平成 23 年度	1 式	100 時間
無線式筋電図計測装置	平成 23 年度	1 式	756 時間
サーモグラフィー	平成 23 年度	1 式	216 時間
尿中酸化ストレスマーカー	平成 23 年度	1 式	216 時間
オートサンプラー	平成 23 年度	1 式	2880 時間
誘発電位測定装置	平成 23 年度	1 式	60 時間
小型臨床科学検査装置	平成 23 年度	1 式	48 時間
トビーグラス	平成 23 年度	1 式	99 時間
ナノフォトメーター	平成 24 年度	1 式	200 時間
マルチインターフェース	平成 24 年度	1 式	60 時間
骨強度試験機	平成 24 年度	1 式	38 時間
全身反応時間計測システム	平成 25 年度	1 式	216 時間
GPS システム	平成 25 年度	1 式	108 時間
テレメトリ式呼吸代謝計測システム	平成 25 年度	1 式	108 時間
遺伝子解析試料用遠心濃縮器	平成 26 年度	1 式	180 時間
携帯型近赤外線組織酸素モニタ装置	平成 26 年度	1 式	160 時間
マルチタイムカウンタ	平成 26 年度	1 式	68 時間
肺機能測定装置	平成 26 年度	1 式	160 時間
ゴニオメーター	平成 26 年度	1 式	126 時間

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

細胞標本作成装置	平成 26 年度	1 式	10 時間
細胞解析装置	平成 26 年度	1 式	10 時間
リアルタイム自律神経解析装置	平成 26 年度	1 式	30 時間

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

1. 生活習慣や運動、体力・運動能力および健康関連指標の推定を行う疫学的調査研究

(1) 国内における調査 (*20,22,32,33,34,35,37,39,41,42,43,44,45,46,57,58,59,60,61,62,147,148, 152,153**3,5,6,***2,6,9,10,26,27,28,29,39,42,43,44,48,54,59,85,92,97,124,125,129,130,157, 161,162,163,166,207,247,263,281)

ヒトの発達ステージの各段階における生活および運動習慣と、現在およびその後の健康状態との関連を明らかにするための、横断研究および後ろ向きコホート研究デザインの疫学調査に着手した。研究対象は未就学児童、小、中および高等学校の生徒、大学生、成人および妊産婦で、対象者の属性毎に質問調査ならびに健康測定を行うため、さまざまなフィールドで共通に使える質問調査票の作成および健康測定における調査項目の選定をおこなった。質問調査票の内容は属性、過去および現在の生活・運動習慣、心理特性(SOC、自己効用感、生活満足度・重視度)、運動に対する態度等を調査できるものとし、特に成人向け運動量の調査については日本語版 IPAQ をベースに共通して用いた。青少年を対象としたフィールドにおいては、保護者に対しても属性、過去および現在の運動習慣、成育歴、運動に対する態度、運動施設へのアクセスの容易さ等を質問紙調査票により調査した。

健康測定については、学校における健康診断結果記録のほか、協力が得られた対象者においては、身体測定、運動能力検査、毛髪・血液・唾液・尿の採取・分析、神経生理学的検査、認知・記憶・精神運動機能検査、骨密度分析、体組成分析など各フィールド独自に項目を追加して実施した。なお、本疫学研究では、調査対象者の属性が多岐にわたるため、対象者の特性により「ユニット」にわけ、これらユニット毎に各専門領域の研究者による調査を実施した。具体的には以下のユニットに対する調査を行った。

①スポーツクラブユニット

小児期の運動習慣が、生涯にわたる心身の健康に及ぼす影響を検討するための調査を行った。まず、幼稚園・保育園において 4、5 歳児を対象にスポーツクラブの活動前後の前頭葉抑制機能検査、自律神経機能検査、アミラーゼ活性値測定を行った。その結果、身体活動量計により測定した運動量が常時多い幼児はそうでない幼児と比較して前頭葉処理速度が速く、さらにスポーツによって効果的に高まるという結果が得られた。さらに、幼児・学童期の子どもを育てている保護者を対象にして、保護者自身の現在の運動習慣と過去の運動・生育歴の関連、またその子どもたちの運動習慣や発達・行動特徴との関連を調査した。その結果、思春期以降にも運動が好きで運動している経験があると、成人して保護者になっても運動習慣を持つことが多く、このことが、その子どもの活動性や性格に良い影響を与えることが示唆された。

②障害児スポーツクラブユニット

小児期に適切な運動習慣を身につけることは、生涯にわたる心身の健康に影響すると考えられるが、発達障害児にはこだわりや社会性に関連する困難さがあるため、全身を使う粗大運動やルールに基づくスポーツ等、集団で運動を行う機会が健常児より少ないと考えられる。今回、集団で運動を行う運動教室へ発達障害児を通わせている保護者を対象に、研究グループで独自に作成した質問紙調査票を用いて、保護者自身の現在の運動習慣と

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

過去の運動・生育歴の関連を調査した。その結果、発達障害児を運動教室へ通わせる保護者のスポーツを始めた理由が、「自身が運動を楽しむため」、「家族と過ごす時間を作るため」である事が明らかになり、保護者の運動の捉え方が子どもを運動教室へ通わせることに繋がり、発達障害児に運動の機会をより多く与えていると示唆された。

③事業所ユニット

3 企業・6 病院で働く男女 1489 名を対象に質問紙調査を実施し、968 名の参加を得た。Wilcoxon 順位和検定の結果、女性で 12 歳時に中程度の運動をしていた群の方がしていなかった群に比べて現在の身体活動量が有意に高かった。さらに、男女とも 20 歳時に中程度の運動をしていた群の方が、また、女性で 20 歳時に激しい運動をしていた群の方が、現在の身体活動量が有意に高かった。このように、子ども～青年期の運動経験が就労後の身体活動を促進する可能性が示唆された。

また、就労支援事業所に通う精神障害者に対する質的研究調査も実施した。10 名(統合失調症 5 名、気分障害 2 名、高次脳機能障害 1 名、てんかん 1 名、適応障害 1 名)に対し、小児期～青年期の運動経験が現在の運動習慣に及ぼす影響について、インタビューを行った。結果として、対象者は小学校入学前までは屋外で遊び、小学校～高校では集団競技(サッカー、野球等)をしていたが、年齢が上がるにつれて、個人競技(テニス、卓球等)へうつる傾向がみられた。大学～就職時(20 歳前後)では、運動をしていない(やめた)人が多く、精神疾患の発病時期と重なるケースもあった。現在は、事業所での仕事自体が運動であると考える人が多く、対象者は「運動したいが、病気の症状と精神科の薬の副作用で疲れやすく、続かない」、「経済的にスポーツをする余裕がなく、運動するくらいなら働く」などと語った。これらの特徴は統合失調症の人に多くみられた。てんかん、適応障害の人の運動経験および習慣には、治療上制限がある、身体障害も合併している等、特殊な状況が含まれていた。

④後ろ向きコホートユニット

都内私立小中学校に保管されていた昭和 16、49、51～54 年(小学校)、昭和 56、58、59 年(中学校)の運動記録をもとに、同卒業生のうち該当する学年 1573 例を対象とした後ろ向きコホートユニット調査を実施した。対象の小・中学校校長及び同校同窓会の協力を得て、平成 25 年 2 月に調査対象者に調査票一式を郵送し、回答を依頼した。その結果、回収数 310 例、回収率 19.7%であった。対象者の多くは調査時年齢が 40 歳代と多忙な時期で、調査に対する関心の低さもあり、回収率が低かったと思われる。また、昭和 16 年の運動記録は対象数が少なく分析困難であった。昭和 49 年以降の小学校運動記録と連結できたのは 98 例(調査時年齢 41～51 歳)、中学校運動記録と連結できたのは 157 例(42～47 歳)であった。質問票で調査した既往歴は糖尿病、高血圧、心疾患、がん、骨粗鬆症、メタボリックシンドローム、うつ病、その他、であった。疾患別の既往割合は低かったため、いずれかの既往の有無で小中学校の運動測定結果を比較した。既往歴なしの人は男女とも小・中学校の 50 m 走、立幅飛び、懸垂等の測定結果が良好で有意な差を認める項目もあった。小・中学校の運動能力と成人してからの健康には関連があると思われる。

⑤横断研究ユニット

保護者の運動習慣、及び運動に対する価値意識やストレス対処能力が、自身の健康や子どもの運動習慣に及ぼす影響について検討するため、首都圏の大学に通う大学生を対象とした横断研究調査を実施した。保護者の子どもに対する身体活動サポートは、自身の過去、及び現在の運動習慣、及び養育態度との関連が見られ、父親と母親の差異が認められた。さらに、保護者の現在の運動習慣は過去の運動習慣より過去の運動に対する認

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

知がより強く影響を及ぼしていることが明らかになった。また、サポートは子どもの運動習慣や競技水準に影響を及ぼしており、父親と母親、男子と女子のそれぞれの組み合わせによってそれらの影響力が異なることが示唆され、父親から男子、母親から女子というように、同性の親子の方が異性の親子より影響を示す指数は高かった。また、子どもの性を分けずに分析したところ、母親より父親の方が子どもに対して強く影響を及ぼしていることが示された。

⑥前向きコホートユニット

全国体力・運動能力、運動習慣等調査成績が全国平均レベルにある都市で、子供のコホートを確立し、子供の身体活動に影響を及ぼす要因等を調査した。その結果、保育園児 279 名、小学生 1045 名からなる追跡可能なコホートを確立することができた。そのベースライン調査として両親に IPAQ-SF、BDHQ などの調査票調査を行うと共に、子どもの毛髪、唾液、口腔粘膜を採取し解析を行った。現在までに、保育園児の朝食摂取が就寝時間と関係すること、唾液アミラーゼ活性は、就寝時刻が遅いと低く、AMY1 copy 数が多いと高いこと、母親は食事調査において子供の摂食量を過大評価すること、フルタイム勤務している保育園児の母親は検診で異常値を持つリスクが高いことなどを明らかにした。

⑦病院ユニット

順天堂医院にて出産をした 300 名の妊産婦を対象とした調査を実施した。妊産婦の過去の運動習慣を質問紙調査により取得し、この内容と妊娠・出産時のアウトカムとの関連性を解析した。病院産科外来を受診した妊婦に対し、妊娠 12 週、25 週および 36 週の 3 時点で運動習慣に関する自記式質問紙調査、過去の運動習慣についても尋ねた。今回の分析は、初産婦のうち、正常経産分娩初産婦 107 名を対象とした。妊娠各期で「定期的に運動をしている」と回答した者は、妊娠 12 週では 13 名(12.9%)、25 週では 31 名(29.8%)、36 週では 37 名(34.6%)であった。妊娠各期の運動習慣あり群となし群の間に、母体年齢、分娩週数、妊娠前 BMI、妊娠中体重増加、分娩時出血量、出生時体重、およびアプガースコアにいずれも有意な差は認められなかった。妊娠 36 週の運動習慣あり群(37 名)はなし群(70 名)と比較し、分娩第 1 期から分娩第 3 期までの分娩所要時間が有意に短かったことから、妊娠末期の運動は分娩時間短縮に有効であることが示唆された。妊娠 36 週の 1 週あたりの運動の頻度は 3.2 ± 2.3 回、1 回あたりの時間は 66.6 ± 39.1 分であった。妊娠 36 週の運動の種類は、ウォーキング、ヨガ、犬の散歩の順に多かったことから、特別な運動の推奨より、日常生活の中で積極的に身体を動かすことが重要であるといえる。なお、過去の運動習慣の有無では分娩所要時間に有意な差は認められなかったことから、分娩時間短縮のためには過去の運動習慣よりも妊娠末期以降の運動が有効である可能性が示唆された。

(2) 国際共同調査 (*105,107,**1,13,18,20,21,40,73,74,77,81,82,91,93,101,116,187,197,209,212,223,248)

国際比較の観点から、特にアジア諸国における子どもの運動や健康の実態と比較するための調査研究を実施した。海外研究者らと共同でアジアの主要 8 都市(東京、ソウル、台北、上海、香港、シンガポール、クアラルンプール、バンコク)における子どもの形態、体力・運動能力、栄養、生活習慣、運動・スポーツ環境、保護者の行動・意識等調査(Asia-fit study)を実施した。調査対象は各都市在住の 12 歳から 15 歳までの男女であり、各都市から約 1600 人を抽出し、計 12590 人の有効なデータを得た。都市別の比較を行った結果、体脂肪率、筋持久力、全身持久力、身体活動量(中・高強度以上の運動時間:MVPA)、スポーツクラブ等加入率について、東京の子どもが他の都市の子どもよりも優れていることが

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

明らかとなった。また関連性の分析結果からは、アジアの子どもに共通して MVPA と持久力の間、そして体脂肪率と持久力の間に正の相関関係が認められた。一方で、スポーツクラブ等加入状況と全身持久力の相関は東京の子ども、特に女子において顕著に強い関連性を示し、都市別の関連性の相違の背景因子として、学校体育を含む運動・スポーツ環境や保護者の行動・意識が示唆された。

東・東南アジアの子どもに加えて、中東やアフリカの子ども(6歳から15歳まで)を対象とした体力・運動能力、生活習慣等調査(International Health-Related Children/Youth Physical Fitness Test and Lifestyle Survey)を実施した。現在までに、ナイジェリア、ヨルダン、トルコのデータ収集が終わり、エジプトが実施準備中である。さらに、対象者を4、5歳児に拡大して比較調査を開始した。

2. 運動継続のための社会および心理的要因に関する研究

(1) 運動継続を規定する社会的要因 (*14***143,144,186,240)

子どものスポーツに関する社会的支援ニーズを明らかにすることを目的に、インターネット調査によって、小学1年～中学3年の保護者に106項目の多岐にわたる項目に対する回答4050名から回答を得た。その結果を分析し、社会的支援の在り方を探るために、支援者と支援内容を自由回答の分析から具体的に明らかにすること、施設とその周辺住民を特定し、施設利用の現状を定性的・定量的の両面から調査することが重要な課題として抽出された。また、子どもの多くは学校のクラブ活動や地域のスポーツ組織に所属しているが、スポーツ活動をしているが、スポーツ組織に加わっていない子どもも一定数存在することが確認され、今後の研究課題として設定する必要性が示唆された。

(2) 運動が与える生理心理学的影響 (*2,3,15,23,50,96,109,**13,14,31

***25,61,66,99,137,151,152,176,177,178,179,180,182,204,220,232,233,246,252,267302)

運動継続に関わる心理的要因の把握と社会性の発達に関わる基礎的な生理心理学的研究を進めた。

① 子どもの運動有能感の把握と相対的年齢効果の影響

幼児の運動有能感(運動に対する自信)を測定するために、既存の尺度の問題点を克服する形で、新たな幼児の運動有能感尺度を開発した。この尺度の開発により、幼児の運動に対する自信が測定可能となった。幼児の運動有能感と運動能力および保育者からの評価の関連を検討した結果、4歳児では関連性は示されないが5歳児では関連性が確認された。この結果から、幼児は5歳頃に自己の客観的な運動能力を捉えながら運動有能感を発達させる可能性が示唆された。

また、幼児の体格、運動能力、運動有能感、保育者からの評価と誕生月との関連を検討した結果、体格、運動能力、保育者からの評価において誕生月の影響(相対的年齢効果)が存在することが確認された。具体的には、学年の切り替え月に近い4月～6月に誕生した者の方が1月～3月に誕生した者よりも優れた値を示すことが確認された。さらに、共分散構造分析を用いて、幼児の誕生月が体格、運動能力を介して保育者の評価に影響を及ぼす可能性を確認した。運動有能感には相対的年齢効果が示されなかったが、これは、ほとんどの幼児が高い運動有能感を示すため誕生月による影響が確認されなかったためである。小学生を対象にした調査では、運動に関わる心理的側面である運動有能感、運動の楽しさ、体育授業の楽しさに誕生月の影響が存在することが確認された。また、誕生月の影響力は学年によって異なることや性別によって異なることが示された。そのため、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

運動参加に関わる心理的側面における相対的年齢効果は、児童期に顕在化してくることが確認された。

②子どもの社会性の発達に関わる生理心理学的研究

社会性の発達について研究を進めるために、英国で開発された社会性の一つであるマインド・リーディング(他者の気持ちを理解する能力)を測定する尺度の妥当性と信頼性を検討し、まず、日本人大学生において適用可能であることを確認した。視線行動を定量化する機器(アイトラッカー)を用いて他者の気持ちを読み取ろうとする時に、表情のどの部分に視線を配分するのかを検討した結果、他者の目の付近に特徴的に視線を配分することが示された。マインド・リーディングを測定するテストを用いて実際に対人場面での困難さとの関連性を検討した結果、マインド・リーディングの得点が低いほど対人場面で困難を抱える頻度が高いことが示された。さらに、胎児期のテストステロンの暴露の影響を受けて発達すると考えられている認知スタイル(empathizing)を高く有するものほど、マインド・リーディングの能力が高いことが示された。また、fMRIを用いて、他者の心理状態を理解しようとする時に特徴的に活動する脳部位を検討した結果、上後頭回と頭頂葉の関与が明らかとなった。また、他者心理状態を理解しようとする時に empathizing の認知スタイルを高く有する者ほど、下前頭回、上側頭回を賦活させる傾向があることも確認された。これらの結果から、社会性の発達には、先天的な要因が関連する可能性と他者の気持ちを理解するような社会性の能力発揮に特徴的な脳部位が関連することが示された。そのため、運動を用いた社会性の促進プログラム等を開発する際には、先天的な要因の関与を考慮する必要性が示された。

3. 青少年期のスポーツ障害予防および用具の開発に関する研究

(1) バイオメカニクス観点からの研究 (*85,110**45,46***22,23,24,45,58,64,174,215,217,235,268,276,283,288、****1)

子どもの短距離走および持久走に着目した動作分析的研究を行い、足の接地方法、脚や腕の動かし方などの観点から走能力の大会子どもと遅い子どもの特徴について調査した。さらに、スポーツ実施前のウォーミングアップとして行うストレッチ方法の相違が筋力発揮等に及ぼす影響や、子どもの筋力・パワー発揮特性についても検討を加えた。これらの視点を含め、ウォーキングやランニングをスポーツバイオメカニクスの観点から解析し、スポーツシューズの構造や機能を発育発達状態に合わせて工夫を施すことで、下肢への力学的な負担度を軽減し、傷害予防や、ランニングパフォーマンスの向上に寄与できる可能性があることを示した。

(2) スポーツ医学的観点からの研究 (*48,56,143**30***201,256,265)

大学生を対象とした調査によりスポーツ種目別に発育発達期の運動障害の特徴について質問紙調査を行い、過去の傷害について部位、診断および受傷スポーツの回答を得た。スポーツ系学部学生は一般学生に比べ、部位では体幹、上肢、下肢が、診断では骨折(含む疲労骨折)、靭帯損傷および肉離れにおいて有意に受傷割合が高かった。さらに、小中高校期における同一種目(サッカー)競技歴と過去の傷害について解析を行ったところ、同一競技歴のある者はそれ以外の者に比べて、部位では下肢が、診断では骨折(含む疲労骨折)および靭帯損傷、肉離れなどを経験した者が有意に多かった。運動強度の違いが、傷害の発生頻度に関わることに加え、同一競技の継続が、傷害の傾向を特徴づけるとともに、その特徴もまた、運動強度により異なる可能性が示唆された。

また、トレーニング量および栄養摂取状況等などと骨代謝および骨質関連の生化学的

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

マーカーとの関連性をもとに若い女性の傷害予防、至適運動量について検討するため、一般女性及び女子スポーツ選手の Ca・骨代謝調節ホルモンとして重要な血清 25 ビタミン D (25(OH)D) と卵巣予備能を示す抗ミュラー管ホルモン (AMH) を測定した。その結果、25(OH)D 不足/欠乏者 (<30ng/mL) の割合は、一般女性 70.4% (76/108)、女性スポーツ選手 55.6% (5/9) であった。AMH 低値者の割合 ($\leq 2.2\text{ng/ml}$) は、一般女性では 25(OH)D 不足・欠乏群が充足群に比較して有意に高かった ($p < 0.01$) が、女性スポーツ選手では両群に関連が認められなかった。本対象者ではスポーツの実施有無に関わらずビタミン D 不足/欠乏が多く認められ、食事からのビタミン D 摂取不足の可能性が示唆された。若い頃からの長期的なビタミン D 欠乏は、骨粗鬆症や骨折などの傷害だけではなく、卵巣機能低下に繋がる可能性が示唆され、女性アスリートは鉄分や葉酸と同様にビタミン D も十分摂取する必要がある。

4. 学校教育現場における教材開発、障害児の至適運動量に関する研究

(1) 体育授業の運動プログラム開発 (*7,8,9,13,21,68,116,119,***192,208,228)

小学生の体育授業において、主観的運動強度を用いた「持久走プログラム」を作成中した。本プログラムを用いて8週間の介入を行った結果、最大酸素摂取量などの生理学的指標に大きな改善は認められなかったが、さらに他の体育・運動プログラムも加え、データを蓄積しながら生理・心理学的指標と合わせて効果を検証した。その結果、実践的な運動プログラムを小学校における持久走指導の単元計画として作成し、子どもに学習させた。これによって、主観的運動強度を「自分に合ったペースを守るには、一定のペースを守ること」として学習させたことにより、その学習可能性が示唆された。課題としては、自分の体の動かし方、走るときのペースのとり方、保ち方、友達との学習といった運動の行い方、学習のしかたを確実に身に付けることを目指すことが課題となった。

(2) 障害児・特別支援学校での調査および介入 (*10,78,145***52,83,102,127,128,190,211,224,225,229,236,237,294,***2)

知的障害特別支援学校の中学部及び高等部生徒を対象として、個別の健康・運動プログラムを作成し、それらを基に学校と家庭で実践的研究を行った。保健体育科の教育課程に関する全国調査の結果から得られた知見をもとに、保健体育科の教育課程の大幅な見直しを行い、単元計画の作成と指導法の検討を行った。特に体力向上を目的とした指導では、活動量計や体組成計を用いたセルフマネジメントの実施、ICTの活用、保健学習の実施等を通して、生徒に運動の意義や行い方、運動の計画の立て方等について実践を行った。その結果、肥満改善に有効である可能性があることを確認した。

5. 実験動物モデル研究 (*4,5,6,11,25,26,28,47,83,111,134, ***15,17,31,33,35,36,68,69,87,

88,89,90,95,111,112,121,158,160,167,169,170,196,198,200,226,230,251,255)

発育期に実施する運動トレーニングが、その後大人以後のライフステージにおいて、生体にどのような影響を及ぼすのかについて明らかにすることを目的に、モデル動物(ラットおよびマウス)を用いた実験系で、発育期の運動の効果を短期的および長期的に検討した。研究成果として、発育期に行う習慣的な運動は、糖尿病および高脂血症の発症リスクを軽減し、その効果は運動中止後においても残存することを明らかにした。そのメカニズムの一端として、運動がインスリン抵抗性を惹起するタンパク質の S-ニトロソ化修飾を減少させることが一部関与する可能性が示唆された。また、長期飼育を行ったマウスにおいて、発育期に運動経験を持つマウスでは、中年期以降に運動のできる環境に移した際、運動

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

量が増加し、ミトコンドリア活性のマーカであるクエン酸脱水素酵素活性の増加や筋線維タイプのシフトが顕著に生じることが明らかとなった。その分子機序として、核タンパク質であるヒストン H3 のアセチル化の亢進が一部関与している可能性が示唆され、若年期の運動経験がヒストン H3 のアセチル化を介して“筋の記憶”として残され、中年期のトレーニング効果の獲得に一部貢献している可能性がある。

<優れた成果が上がった点>

(1) 首都圏の私立小・中学校に保管されている昭和 16 年、40 年～50 年代の体力測定結果約 2500 名の卒業生を追跡し、現在成人している対象者(41～84 歳)に調査票を郵送し、健康状態を調査する後ろ向きコホート研究を立ち上げ、発育発達期の運動や体力の状態が中・高齢期に及ぼす影響について超長期的にヒトで検証する研究が実現した。今後も更に調査を継続していくことが可能なコホートを確立できた点が優れた成果として評価できる。

(2) 海外研究者らとともに、アジアの主要 8 都市(東京、ソウル、台北、上海、香港、シンガポール、クアラルンプール、バンコク)における子ども(中学生)の体力・運動能力、栄養、生活習慣等を同一時期、同一プロトコルで比較する、ASIA-Fitness Study において日本(東京)の測定を担当するとともに、本プロジェクトの中心的な役割を果たし、その成果をまとめるための全体シンポジウムを開催した。その後さらに国際比較の地域を拡大し、プロジェクトを発展させ、運動を含む生活習慣を軸とした子どもの健康体力に関わる世界的な研究拠点として、本スポーツ健康医科学研究所が機能している点が本プロジェクトの主旨に合致した優れた成果であると評価できる。

(3) 若年期の運動経験が成人以降の健康や運動習慣にどのように貢献するのかを実証することは、ヒトを対象として研究では極めて長い年月が必要となる。この問題解決のために、動物実験モデルを用いて検討を行い、若年期の運動経験がその後も生体内にある種の記憶として残され、中年期以降におけるトレーニング効果の獲得に一部貢献している可能性がある生理生化学的なメカニズムを提示できたことは優れた成果として認められる。

<課題となった点>

本研究プロジェクトは、ヒトの発育発達過程およびその後のライフステージにおける運動・生活習慣の重要性を明らかにする研究プロジェクトであり、5年間のプロジェクト期間内で達成できる課題には時間的な制約があり、主として横断的研究手法によるものにならざるを得なかった。この点は本テーマにおけるリミテーションでもあるため、研究開始時よりその方法論上の限界を補うため、semi-longitudinal な研究手法を用いて複数年代を対象として同時スタートした研究成果をつなぎ合わせることで、また、目標とする健康づくりのための至適運動量を提案するための理論的根拠となるエビデンスを得るためには、運動疫学的手法の専門家を外部共同研究者に加え論文システムティックレビューを行うなどの対応を図った。また、寿命の短い実験動物モデルを用いた基礎研究にも同時に精力を注いで潜在的な問題の解決に力を注ぎ一定の成果を得た。しかし、最終的にヒトの発育発達過程およびその後のライフステージにおける運動・生活習慣の重要性を明らかにするためには、今後も更にプロジェクトを継続し、本プロジェクトによって形成された研究拠点を核に研究に取り組んでいく必要がある。

<自己評価の実施結果と対応状況>

スポーツ健康医科学研究所には、自己点検評価委員会が設置されており、毎年スポーツ健康医科学研究所の運営委員会の中で、各研究プロジェクトの進捗状況、自己評価結果を報告、年度ごとの点検評価によって、目標達成に向けた研究成果の見直しを行った。ユニットを組んでのチーム編成、PD・教員・他大学の積極的な人材活用などは、初年度での点検評

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

価を反映した対応である。また、チーム間でのデータや被験者情報等をシェアの必要性の評価に対しては、本プロジェクトに参加する研究者すべてに、毎年の研究発表への出席、成果発表 ならびに成果報告書、次年度の研究計画書の提出を義務づけた。また、本学内で進行している他のプロジェクトとの合同での研究成果報告会を開催し、本プロジェクトに係る学内の研究者だけでなく学内外の共同研究者も参加し、個々のプロジェクトの厳正な評価を行い、プロダクティブな討議をした。PD、RA に関しては、年に1～2 度の研究進捗状況の報告を義務づけ、成果の満たないものに関してはプロジェクトの中止、変更を勧告した。さらに、一般向けも含め公開シンポジウムを積極的に開催することの評価に対して、一般向けの講演活動や地域の子どもの対象とした公開講座などを利用して成果の還元を積極的に行うこと、また、国際シンポジウムを最終年度には開催した。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

外部(第三者)評価委員からのコメントをふまえ、研究成果を論文などの学術的なものに限定せず、その成果を広く子どもたちの健康づくりに役立てるための実践活動も積極的に行い、運動・スポーツによる子どもの心とからだの健康づくりのための実践モデルの構築を模索した。また、本プロジェクトのまとめとして最終年度に実施した国際シンポジウムを開催時においても外部評価委員会から総括コメントを得た。評価された点は、海外の研究者との共同研究が実施されていること、海外共同研究拠点としての役割を十分果たすことができていた点である。課題として上げられた点は、基礎研究で得られた知見を、ヒトを対象に実証することや長期的追跡研究によるエビデンスを構築することへの一層の努力であり、超長期的視野をもって子どもにおける運動・スポーツの在り方を検討するために、基礎研究によって得られた短期的成果を応用研究に生かすことや本事業に協力した調査対象者を長期にわたって追跡するための、より長期間の事業支援が求められた。また、海外評価者からは、アジアにおける子どもの運動と健康を国際共同で扱った大規模調査がこれまでにないことから、この取り組み自体に対して非常に高い評価を得た。特に調査データだけでは明らかにできない社会背景要因について各国の調査代表者を国際シンポジウムに招聘し意見交換したことや、対象年齢を幼児に拡大して調査したことも高い評価を得た。一方で、海外共同研究拠点として本拠点が機能するためには定期的な人的交流が必要であり、それが今後も継続されることで世界的にも貴重な研究成果が得られ、そのことが一流研究者の流入と更なる研究成果を得る好循環を生むであろうとの提言も得られた。本プロジェクトによって形成した拠点を今後発展させていく必要性を感じる評価であった。

<研究期間終了後の展望>

本プロジェクトの研究テーマは、今後その必要性がさらに高まり発展的であると考えている。子どもだけに限らず、どの世代でも、健康づくりのプログラムの開発は多岐に研究の成果を発揮できるため、今後もスポーツ健康医科学研究所を拠点として本テーマに継続的に取り組んでいくこととしている。

<研究成果の副次的効果>

子どもの歩行・走行動作と足圧パターンの計測を通して、通学にも体育授業やスポーツ活動にも対応できまた足部のストレス軽減と正しい歩き方を促すことを目指した新たな子ども用のシューズを、関連メーカーとともに開発中である。

また、積極的に若手研究者の育成することも拠点形成の目的として取り組んだ。特に、国際シンポジウムでは、その準備段階から、若手研究者、PD、RA で企画運営を行い、シンポ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

ジウムを成功させた事は、副次的な成果として特筆できる。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 発育発達 (2) 体力運動能力 (3) 生活習慣病
(4) スポーツ障害 (5) 障害児 (6) 保健体育授業
(7) 至適運動量 (8) 国際比較研究

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

No	※	著者名	論文名	掲載雑誌名	巻	頁	発表年	査読
1		大橋恵, 井梅由美子, 藤後悦子, <u>川田裕次郎</u>	地域におけるスポーツのコーチの喜びと困惑ーコーチ対象の調査の内容ー	コミュニティ心理学研究	印刷中		2016	有
2	*	藤後悦子, <u>川田裕次郎</u> , 井梅由美子, 大橋恵	小学生スポーツを取り巻く親の対人関係	コミュニティ心理学研究	印刷中		2016	有
3	*	Akari Kamimura, <u>Yujiro Kawata</u> , Masataka Hirose	The relationship between birth month, physical size, motor ability and evaluation from kindergarten teachers among Japanese young children	Juntendo Medical Journal	印刷中		2016	有
4	*	Yoshihara T, <u>Machida S</u> , Kurosaka Y, Kakigi R, Sugiura T, <u>Naito H</u> ,	Immobilization induces nuclear accumulation of HDAC4 in rat skeletal muscle.	J Physiol Sci.	in press		2016	有
5	*	Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Kakigi R, Kobayashi H, <u>Naito</u>	Long-Lasting Effects of Early-Onset Exercise on the Prevention of Obesity and Its Related Lifestyle Disease	Juntendo Medical Journal	in press		2016	有
6	*	Takamine Y, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, <u>Naito H</u> ,	Effects of Treadmill Running on Bone Density and Bone Strength in Young Mice	Juntendo on Medical Journal	in press		2016	有
7	*	津田龍佑, <u>鈴木宏哉</u>	体力向上と体力に関する知識を理解させることを意図したゴール型・サッカーの指導計画の有効性	体育学研究	印刷中		2016	有
8	*	<u>鈴木宏哉</u>	発育発達研究推進のための測定評価的アプローチ	子どもと発育発達	印刷中		2016	無
9	*	<u>鈴木宏哉</u>	体力テストを子どもの指導にどう生かすか	コーチング・クリニック	印刷中		2016	無

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

10	*	渡邊貴裕 橋本創一 菅野敦 宮崎義成 尾高邦生	知的障害特別支援学校に おける保健の指導の実際- 中学部保健体育科担当教 諭を対象とした全国調査の 結果から-	発達障害学研究	印刷中		2016	有
11	*	Pengyu deng, Ichinoseki-Sekine N,Liangfu Zhou <u>Naito</u> <u>H</u> ,	Changes in Physical activity and weight status of Chinese children : A restrospective longitudinal study	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine	印刷中		2016	有
12	*	<u>Suzuki K, Naito H,</u> Balasekaran G, Song JK, Liou YM, Lu D, Poh BK, Kijboonchoo K, Hui SS.	Japanese adolescents are the most physically fit and active in East and Southeast Asia	Juntendo Medical Journal	62 (suppl 1)	96-98	2016	無
13	*	<u>鈴木宏哉</u>	ロコモにならない子どもを育 てる	からだの不思議	3月号	1-7	2016	無
14	*	伊藤 央二、山口 志 郎、岡安 功、北村 <u>薫</u> , Gordon J. Walker.	青年の野外レクリエーション の参加動機と阻害要因が野 外レクリエーション参加に与 える影響: 日本とカナダの文 化的類似・相違点の比較検 討	体育学研究	web 早期 公開		2016	有
15	*	藤後悦子, 浅井健 史, 勝田紗代, 川田 裕次郎, 藤後淳一, 大浦宗博, 関谷悠 介, 谷中風次, 徳永 祐典	中学生のバスケットボール チームへの森田療法を用い た心理サポートの可能性~ 森田療法的メンタルトレニ ングワークアウトの開発と改善 ~	モチベーション研 究	印刷中		2015	有
16		Natsume T, Ozaki H, Saito AI, Abe T, <u>Naito</u> <u>H</u> .	Effects of Electrostimulation with Blood Flow Restriction on Muscle Size and Strength.	Medicine and Science in Sports and Exercise.	47(12)	2621-2627	2015	有
17		Ishihara Y, <u>Naito H</u> , Ozaki H, Yoshimura M.	Aerobic Fitness Relation to Match Performance of Japanese Soccer Referees.	Football Science.	12	91-97	2015	有
18		Ozaki H, Abe T, Mikesky AE, Sakamoto A, <u>Machida</u> <u>S</u> , <u>Naito H</u> .	Physiological stimuli necessary for muscle hypertrophy	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine.	4(1)	43-51	2015	有
19		Kitada T, <u>Machida S</u> , <u>Naito H</u> .	Influence of muscle fibre composition on muscle oxygenation during maximal running.	BMJ Open Sport Exerc Med	1	e000062	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

20	*	Sunami A, Sasaki K, Suzuki Y, Oguma N, Ishihara J, Nakai A, Yasuda J, Yokoyama Y, Yoshizaki T, Tada Y, Hida A, Kawano Y.	Validity of a semi-quantitative food frequency questionnaire for collegiate athletes.	J Epidemiol	in press		2016	有
21	*	Okazaki K., Suzuki, K. Sakamoto Y., Sasaki K.	Physical activity and sedentary behavior among children and adolescents living in an area affected by the 2011 Great East Japan earthquake and tsunami for 3 years.	Prev Med Rep.	2	720-724	2015	有
22	*	Nishioka E, Hirayama S, Ueno T, Matsukawa T, Vigeh M, Yokoyama K, Makino S, Takeda S, Miida T	Relationship between maternal thyroid-stimulating hormone (TSH) elevation during pregnancy and low birth weight: a longitudinal study of apparently healthy urban Japanese women at very low risk.	Early Hum Dev.	91(3)	181-5	2015	有
23	*	Kawata Y, Hirose M, Kirino E.	Relationship between Innate Cognitive Styles and Mind Reading among Japanese University Students: An Approach based on Empathizing-Systemizing Theory.	Juntendo Medical Journal	60(6)	559-567	2015	有
24		Kimura E, Matsuyoshi C, Miyazaki W, Benner S, Hosokawa M, Yokoyama K, Kakeyama M, Tohyama C	Prenatal exposure to bisphenol A impacts neuronal morphology in the hippocampal CA1 region in developing and aged mice.	Arch Toxicol.	90(3)	691-700	2015	有
25	*	Yoshihara T, Sugiura T, Yamamoto Y, Shibaguchi T, Kakigi R, Naito H	The response of apoptotic and proteolytic systems to repeated heat stress in atrophied rat skeletal muscle.	Physiol Rep.	3(10)	E12597	2015	有
26	*	Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Tsuzuki T, Sugiura T, Powers SK, Naito H.	Repeated exposure to heat stress results in a diaphragm phenotype that resists ventilator-induced diaphragm dysfunction.	J Appl Physiol (1985).	119(9)	1023-31	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

27		Sakamoto A, <u>Naito H</u> , Chow CM.	Hyperventilation-induced respiratory alkalosis falls short of countering fatigue during repeated maximal isokinetic contractions.	Eur J of Appl Physiol.	115(7)	1453-1465	2015	有
28	*	Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Miura S, <u>Naito H</u> .	Whey peptide ingestion suppresses body fat accumulation in senescence-accelerated mouse prone 6 (SAMP6).	Eur J Nutr	54(4)	551-556	2015	有
29	*	<u>Suzuki K</u> , <u>Naito H</u> , Hui SS., Balasekaran G., Song JK., Liou YM., Lu D., Poh BK., Kijboonchoo K	School sports club promotion reduces physically unfit and inactive adolescents: the Asia-fit Study	Medicine & Science in Sports & Exercise	47(5S)	523	2015	有
30	*	Hui SS., <u>Suzuki K</u> , <u>Naito H</u> , Balasekaran G., Song JK., Liou YM., Lu D., Poh BK., Kijboonchoo K	How Fit and Active in Asian Youth? The Asia-fit Study.	Medicine & Science in Sports & Exercise	47(5S)	922	2015	有
31	*	<u>Suzuki K</u> , <u>Naito H</u> , Sakamoto A., Hui SS	Sports club activity does not reduce sedentary behaviours of Japanese female adolescent	Journal of Science and Medicine in Sport	18(6)	40-41	2015	有
32	*	Yaginuma S, <u>Sakuraba</u> <u>K</u> , Kadoya H, Koibuchi E, <u>Matsukawa T</u> , Ito H, <u>Yokoyama K</u> , <u>Suzuki</u> <u>Y</u> .	Early bedtime associated with the salutary breakfast intake in Japanese nursery school children.	Int Med J.	22(1)	30-32	2015	有
33	*	Watanabe K., <u>Yokoyama K</u> , Furukawa T.	Reliability and validity of the Japanese version of the coping inventory for adults for stressful situations in healthy people.	Psychological Reports	116	447-469	2015	有
34	*	Vigeh M, <u>Yokoyama</u> <u>K</u> , <u>Matsukawa T</u> , Shinohara A, Ohtani K.	The relation of maternal blood arsenic to anemia during pregnancy.	Women&Health	55	42-57	2015	有
35	*	Nakahara E, Sakuma H, Kimura-Kuroda J, <u>Shimizu T</u> , Okumura A, Hayashi M.	A diagnostic approach for identifying anti-neuronal antibodies in children with suspected autoimmune encephalitis.	J Neuroimmunol	285	150-5	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

36		Okumura A, Nakazawa M, Abe S, Ikeno M, Igarashi A, Shimizu T.	Sustained improvement of attitudes about epilepsy following a reduction in media coverage of car accidents involving persons with epilepsy.	Epilepsy Behav	48	41-4	2015	有
37	*	Matsunaga N, Hisata K, Shimizu T.	An investigation into the vancomycin concentration in the cerebrospinal fluid due to vancomycin intraventricular administration in newborns: a study of 13 cases.	Medicine	94	e922	2015	有
38		Jimbo K, Suzuki M, Fujii T, Ohtsuka Y, Sugo H, Kawasaki S, Shimizu T.	Usefulness of magnetic resonance angiography for the evaluation of varices at hepaticojejunostomy after liver transplantation.	Acta Radiol Open	4(5)	2058460115 578600	2015	有
39	*	Jimbo K, Arai K, Kobayashi I, Matsuoka K, Shimizu H, Yanagi T, Kubota M, Ohtsuka Y, Shimizu T, Nakazawa A.	A case of isolated autoimmune enteropathy associated with autoantibodies to a novel 28 kilodalton duodenal antigen.	J Pediatr Gastroenterol Nutr	60	e17-9	2015	有
40		Itoh H., Takamura M., Yokoyama K	Postgraduate psychiatry training and associated greater self-rated competence in primary care physicians in internal medicine in managing mental health disorders in Japan	Juntendo Medical Journal	61	508-516	2015	有
41	*	内藤久士	子どもの健康・体力とスポーツ	保健の科学	57(1)	39-43	2015	無
42	*	鹿野晶子, 鈴木宏哉, 野井真吾	小学生における高次神経活動の実態とそれに及ぼす生活状況の検討: go/no-go 課題における誤反応数と型判定の結果を基に	発育発達研究	66	16-29	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

43	*	<u>鈴木宏哉</u>	被災地における三年間の調査と体育的支援活動から見る子どもたちのからだと心の変化	保健室	177	45-54	2015	無
44	*	<u>鈴木宏哉</u>	子どもにおける体力・身体活動の大規模調査と縦断的調査の意義	体育の科学	65(4)	271-277	2015	無
45	*	<u>鈴木宏哉</u>	子どものスポーツライフ・データ2013 (SSF 笹川スポーツ財団): 調査の特徴と可能性	体育の科学	65(7)	497-504	2015	無
46	*	<u>鈴木宏哉</u>	被災地の子どもたちの運動環境支援に取り組んだ4年間と今後の課題	体育科教育	11月号	36-40	2015	無
47	*	Tsuzuki T, Shinozaki S, Nakamoto H, Kaneki M, Goto S, Shimokado K, Kobayashi H, <u>Naito H,</u>	Voluntary Exercise Can Ameliorate Insulin Resistance by Reducing iNOS-Mediated S-Nitrosylation of Akt in the Liver in Obese Rats	PLOS ONE		0132029	2015	有
48	*	鎌田浩史、山澤文裕、鳥居俊、 <u>櫻庭景植</u> 、向井直樹、菅原誠、前澤克彦、真鍋知宏、難波聡、田口素子、松生果里	陸上競技ジュニア選手のスポーツ外傷・障害調査。インターハイ出場選手調査報告第1報(2014版)	日本陸上競技連盟発行			2015	無
49		<u>北村 薫</u>	スポーツの社会的意義	保健の科学	57	33-38	2015	無
50	*	<u>Kawata, Y, Hirose, M, Nirotu N., irino, E.</u>	Relationship between Empathizing-Systemizing cognitive Styles and Mind Reading among Japanese Adolescents.	Juntendo Medical Journal	60(6)	559-567	2014	有
51		Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Sugiura T, Powers SK, <u>Naito H.</u>	Heat stress protects against mechanical ventilation-induced diaphragmatic atrophy.	J Appl Physiol (1985)	117(5)	518-524	2014	有
52		Kakigi R, Yoshihara T, Ozaki H, Ogura Y, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, <u>Naito H.</u>	Whey protein intake after resistance exercise activates mTOR signaling in a dose-dependent manner in human skeletal muscle.	Eur J Appl Physiol	114(4)	735-742	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

53		Kawaguchi M, Tamura Y, Kakehi S, Takeno K, Sakurai Y, Watanabe T, Funayama T, Sato F, Ikeda S, Ogura Y, Saga N, <u>Naito H</u> , Fujitani Y, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H.	Association between expression of FABPpm in skeletal muscle and insulin sensitivity in intramyocellular lipid-accumulated nonobese men.	J Clin Endocrinol Metab	99(9)	3343-3352	2014	有
54		Ozaki H, Kakigi R, Kobayashi H, Loenneke JP, Abe T, <u>Naito H</u> .	Effects of walking combined with restricted leg blood flow on mTOR and MAPK signalling in young men.	Acta Physiol (Oxf)	211(1)	97-106	2014	有
55		Sakamoto A, <u>Naito H</u> , Chow CM.	Hyperventilation as a strategy for improved repeated sprint performance.	J Strength Cond Res	28(4)	1119-26	2014	有
56	*	中嶽 誠、 <u>河合祥雄</u> 、 <u>広沢正孝</u> 、 <u>櫻庭 景植</u> 、 <u>小熊 英伸</u> 、 <u>島内 憲夫</u> 、 <u>鈴木 美奈子</u> 、 <u>田辺 正</u> 、 <u>鈴木大地</u> 、 <u>吉村雅文</u> 、 <u>青葉 幸洋</u> 、 <u>山田満</u> 、 <u>佐久間和彦</u> 、 <u>越川 一紀</u> 、 <u>仲村明</u> 、 <u>青木 和浩</u> 、 <u>山崎一彦</u> 、 <u>鯉川なつえ</u> 、 <u>高梨雄太</u> 、 <u>長門俊介</u> 、 <u>平尾智美</u> 、 <u>加納 實</u> 、 <u>原田睦巳</u> 、 <u>富田洋之</u> 、 <u>濱野光之</u> 、 <u>菅波盛雄</u> 、 <u>廣瀬伸良</u> 、 <u>中村充</u> 、 <u>砂見 綾香</u> 、 <u>佐々木 和登</u> 、 <u>川野 因</u> 、 <u>鈴木 良雄</u> 、JNASグループ	運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態	調理食品と技術：日本調理食品研究会誌	20(3)	105-111	2014	有
57	*	Koibuchi E, <u>Suzuki Y</u> .	Exercise up-regulates salivary amylase in humans (Review)	Exp Ther Med	7(4)	773-777	2014	有
58	*	<u>Matsukawa T</u> 、 <u>Yokoyama K</u> 、 <u>Ishibashi M</u> 、 <u>Kajiyama S</u>	Fourth juntendo university-hitachi cooperative research workshop:New quantitative gait analysis system for evaluation of child developmet.	Juntendo Medical Journal	60	524	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

59	*	Nishioka E, <u>Yokoyama K</u> , <u>Matsukawa T</u> , <u>Vigeh M</u> , <u>Hirayama S</u> , <u>Ueno T.</u> , <u>Miida T.</u> , <u>Makino S.</u> , <u>Takeda S.</u>	Evidence that birth weight is decreased by maternal lead levels below 5 μ g/dl in male newborns.	Reprod Toxicol	47	21-26	2014	有
60	*	<u>Vigeh M.</u> , <u>Yokoyama K.</u> , <u>Matsukawa T.</u> , <u>Shinohara A.</u> , <u>Ohtani K.</u>	Low level prenatal blood lead adversely affects early childhood mental development.	J Child Neurol	29(10)	1305-11	2014	有
61	*	<u>Suganuma H</u> , <u>Ikeda N</u> , <u>Ohkawa N</u> , <u>Nagata S</u> , <u>Shoji H</u> , <u>Shimizu T.</u>	Fat emulsion given to very-low-birth-weight infants increases urinary L-FABP.	Pediatr Int	56	207-10	2014	有
62	*	<u>Tajiri H</u> , <u>Tanaka Y</u> , <u>Takano T</u> , <u>Suzuki M</u> , <u>Abukawa D</u> , <u>Miyoshi Y</u> , <u>Shimizu T</u> , <u>Brooks S.</u>	Association of IL28B polymorphisms with virological response to peginterferon and ribavirin therapy in children and adolescents with chronic hepatitis C.	Hepatol Res	44	e38-44	2014	有
63		<u>Suzuki M</u> , <u>Sai JK</u> , <u>Shimizu T.</u>	Acute pancreatitis in children and adolescents.	World J Gastrointest Pathophysiol	5	416-26	2014	有
64		<u>Nishizaki N</u> , <u>Fujinaga S</u> , <u>Hirano D</u> , <u>Murakami H</u> , <u>Kamei K</u> , <u>Ohtomo Y</u> , <u>Shimizu T</u> , <u>Kaneko K.</u>	Membranoproliferative glomerulonephritis Type 3 associated with Kabuki syndrome.	Clin Nephrol	81	369-73	2014	有
65		<u>Niizuma N</u> , <u>Okumura A</u> , <u>Kinoshita K</u> , <u>Shimizu T</u>	Acute encephalopathy associated with human metapneumovirus infection	Jpn J Infect Dis	67	231-5	2014	有
66		<u>Nakanishi K</u> , <u>Kawasaki S</u> , <u>Takahashi K</u> , <u>Shimizu T</u> , <u>Amano A.</u>	Successful treatment of a rare case of neonatal Ebstein anomaly in a very low-birth-weight premature neonate.	J Card Surg	29	709-11	2014	有
67		<u>Arai E</u> , <u>Fujimaki T</u> , <u>Yanagawa A</u> , <u>Fujiki K</u> , <u>Yokoyama T</u> , <u>Okumura A</u> , <u>Shimizu T</u> , <u>Murakami A.</u>	Familial cases of Norrie disease detected by copy number analysis.	Jpn J Ophthalmol	58	448-54	2014	有
68	*	<u>今関豊一</u> , <u>荻原朋子</u> , <u>青木和浩</u> , <u>松橋義巳</u> , <u>酒匂宙夢</u> , <u>棗寿喜</u>	体育科学習内容を明確にした小学校持久走授業の検討	日本陸上競技学会誌	12(1)	55-69	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

69		小野隆, 涌井佐和子, <u>広沢正孝</u>	介護予防事業の運動介入による自己効力感への効果: 痛みの違いによる縦断的变化	生涯スポーツ研究	11(2)	27-32	2014	有
70		山田快, 荒井弘和, 中澤史, 川田裕次郎, 上村明, <u>北村薫</u> , <u>広沢正孝</u>	スポーツチームの一体感と組織風土との関係性—コミュニケーションを起点とした一体感向上へのアプローチ方法の検討—	スポーツ産業学研究	24	113-128	2014	有
71		<u>広沢正孝</u>	発達障害と精神疾患	精神療法	40(1)	141-149	2014	無
72		<u>広沢正孝</u>	自閉症スペクトラム障害に並存しやすい精神症状の治療.	精神科治療学	29(増刊号)	270-272	2014	無
73		成田奈緒子	(総説) 子ども達の脳と体の発達	母子健康協会事務局機関紙ふたば	78	2-7	2014	無
74		成田奈緒子	(総説) 食べること・寝ることを整えて脳をつくる	食べもの文化	474	6-21	2014	無
75		成田奈緒子	(総説) 自閉症スペクトラム障害における運動・睡眠指導の意義	保健の科学	56	321-326	2014	無
76		成田奈緒子	(総説) 子どもの脳の育て方	健康科学	170	9-14	2014	無
77		成田奈緒子	(総説) もう一度考えよう、子どもの「脳育て」	保健室	164	3-9	2014	無
78	*	<u>渡邊貴裕</u> , 橋本創一, 菅野敦	知的障害特別支援学校の体育・スポーツ指導における体力・運動能力等調査の実態と課題	発達障害学研究	36(2)	196-208	2014	有
79		上野佳代、鈴木直樹、小林巖、奥住秀之、 <u>渡邊貴裕</u> 、他	ICTを活用した体育の授業づくり	東京学芸大学付属学校研究紀要第	41	42639	2014	有
80		Tomita S, Muto T, Matsuzuki H, Haruyama Y, Ito A, Muto S, Haratani T, Seo A, Ayabe M, <u>Katamoto S.</u>	Risk factors for frequent work-related burn and cut injuries and low back pain among commercial kitchen workers in japan.	Ind Health	51(3)	297-306	2013	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

81		Matsuzuki H, Haruyama Y, Muto T, Aikawa K, Ito A, <u>Katamoto S.</u>	Workers' load and job-related stress after a reform and work system change in a hospital kitchen in Japan.	Environ Health Prev Med	18(2)	171-6	2013	有
82		Sugiyama K, Kawamura M, Tomita H, <u>Katamoto S.</u>	Oxygen uptake, heart rate, perceived exertion, and integrated electromyogram of the lower and upper extremities during level and Nordic walking on a treadmill.	J Physiol Anthropol	32(1)	2	2013	有
83	*	Yoshihara T, <u>Naito H</u> , Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Ogura Y, Sugiura T, <u>Katamoto S.</u>	Heat stress activates the Akt/mTOR signaling pathway in rat skeletal muscle.	Acta Physiol (Oxf)	207(2)	416-26	2013	有
84		Ozaki H, Yasuda T, Ogasawara R, Sakamaki-Sunaga M, <u>Naito H</u> , Abe T	Effects of high-intensity and blood flow-restricted low-intensity resistance training on carotid arterial compliance: role of blood pressure during training sessions.	Eur J Appl Physiol	113(1)	167-74	2013	有
85	*	Miyahara Y, <u>Naito H</u> , Ogura Y, <u>Katamoto S</u> , Aoki J.	Effects of proprioceptive neuromuscular facilitation stretching and static stretching on maximal voluntary contraction.	J Strength Cond Res	27(1)	195-201	2013	有
86		Sooneste H, Tanimoto M, Kakigi R, Saga N, <u>Katamoto S</u>	Effects of training volume on strength and hypertrophy in young men.	J Strength Cond Res	27(1)	8-13	2013	有
87		<u>内藤久士</u>	運動刺激を構成する要素.	体育の科学	63(8)	697-600	2013	無
88		Radak Z, Koltai E, Taylor AW, Higuchi M, Kumagai S, Ohno H, Goto S, Boldogh I.	Redox-regulating sirtuins in aging, caloric restriction, and exercise.	Free Radic Biol Med.	58	87-97	2013	有
89		Sasaki S, Matsuura T, Takahashi R, Iwasa T, Watanabe H, Shirai K,	Effects of regular exercise on the neutrophil functions and antibody responses against 4-hydroxy-2-nonenal adducts in middle-aged humans, possible correlation with oxidative stress.	Exercise Immunology Rev.	19	62-73	2013	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

90		<u>Goto S, Radak Z.</u>	Implication of oxidative damage to proteins and DNA in aging and its intervention by caloric restriction and exercise.	J Sport Health Sci.	2	75-80	2013	有
91		Radak Z, Marton O, Nagy E, Koltai E, <u>Goto S.</u>	The complex role of physical exercise and reactive oxygen species on brain.	J Sport Health Sci.	2	87-93	2013	有
92		Nakamura A, Kawakami K, Kametani, <u>Goto S.</u>	Dietary restriction increases protein acetylation in the livers of aged rats.	Gerontology	59	542f-548	2013	有
93		Tsuchiya Y, Ochi E, <u>Sakuraba K, Kikuchi N, Hwang I.</u>	Isokinetic strength and anaerobic / intermittent capacity of Japanese lacrosse players.	Isokinet Exerc Sci	21	77-82	2013	有
94		Tsuchiya Y, <u>Sakuraba K, Ochi E.</u>	High force eccentric exercise enhances serum tartrate-resistant acid phosphatase-5b and Osteocalcin.	J Musculoskelet Neuronal Interact	14	50-57	2014	有
95		Nakaniida A, <u>Sakuraba K, Hurwitz E.</u>	Pediatric Orthopedic Injuries Requiring Hospitalization; Epidemiology and Economics.	J Orthop Trauma	28	167-172	2014	有
96	*	Kai Yamada, <u>Yujiro Kawata, Nobuyuki Nakajima, Masataka Hirosawa</u>	A study of the unity of sports teams: development of a scale and examination of related factors	Journal of Physical Education and Sport	77	489-497	2013	有
97		Miura T, <u>Sakuraba K.</u>	Influence of Different Spinal Alignments in Sitting on Trunk Muscle Activity.	J Phys Ther Sci	25	483-487	2013	有
98		Kaneko M., <u>Sakuraba K.</u>	Association between femoral anteversion and lower extremity posture upon single-leg landing: implications for anterior cruciate ligament injury.	J Phys Ther Sci	25	1213-1217	2013	有
99		Vigeh M., <u>Yokoyama K., Ohtani K., Shahbazi F., Matsukawa T</u>	Increase in blood manganese induces gestational hypertension during pregnancy.	Hypertens Pregnancy	32(3)	214-24	2013	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

100		Kuroda M., Kawakubo Y., Kuwabara H., <u>Yokoyama K.</u> , Kano Y., Kamio Y.	A cognitive-behavioral intervention for emotion regulation in adults with high-functioning autism spectrum disorders: study protocol for a randomized controlled trial.	Trials	14	231	2013	有
101		Hagi N., Takamura M., <u>Yokoyama K.</u>	Factors affecting early psychiatric intervention for patients with first-episode psychosis in Japan.	Early Interv Psychiatry	7(3)	255-60	2013	有
102		Guan H., Wang M., Li X., Piao F., Li Q., Xu L., Kitamura F., <u>Yokoyama K.</u>	Manganese concentrations in maternal and umbilical cord blood: related to birth size and environmental factors.	Eur J Public Health	24(1)	150-7	2013	有
103		Vigeh M., 伊藤弘明	発達・生殖影響	保健の科学	55	35-38	2013	無
104		西岡笑子, 牧野真太郎, 廣田則子, 星子英子, 根岸万里子, <u>松川岳久</u> , 北村文彦, <u>横山和仁</u> , 竹田省	産後1ヵ月の授乳方法と産後うつ状態との関連	産業衛生学雑誌	55	40	2013	無
105	*	Guan H, Piao F, Zhang X, Li X, Li Q, Xu L, Kitamura F, <u>Yokoyama K.</u>	<u>Prenatal exposure to arsenic and its effects on fetal development in the general population of Dalian.</u>	Biol Trace Elem Res	149(1)	10-15	2012	有
106		Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Ogura Y, Sugiura T, <u>Naito H.</u>	Fiber-type specific expression of alpha-actinin isoforms in rat skeletal muscle.	Biochem Biophys Res Commun	419(2)	401-404	2012	有
107	*	Iriani UD, Matsukawa T, Tadjudin KM, Itoh H, <u>Yokoyama K.</u>	<u>Cross-sectional study on the effects of socioeconomic factors on lead exposure in children by gender in Serpong, Indonesia.</u>	Int J Environ Res Public Health	9	4135-4149	2012	有
108		Ishii H, <u>Yanagiya T</u> , <u>Naito H</u> , <u>Katamoto S</u> , Maruyama T.	Theoretical study of factors affecting ball velocity in instep soccer kicking.	J Appl Biomech	28(3)	258-270	2012	有
109	*	<u>Kawata Y</u> , Kirino E, Mizuno M, <u>Hirosawa M.</u>	Mind reading through the eyes: an fMRI study.	Work	41	5785-5787	2012	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

110	*	Koyama K, <u>Naito H</u> , Ozaki H, <u>Yanagiya T</u> .	Effects of unstable shoes on energy cost during treadmill walking at various speeds.	J Sports Sci Med	11	632-637	2012	有
111	*	Kurosaka M, <u>Naito H</u> , Ogura Y, <u>Machida S</u> , <u>Katamoto S</u> .	Satellite cell pool enhancement in rat plantaris muscle by endurance training depends on intensity rather than duration.	Acta Physiol (Oxf)	205(1)	159-166	2012	有
112		<u>Naito H</u> , Yoshihara T, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T.	Heat stress-induced changes in skeletal muscle: heat shock proteins and cellular signaling transduction.	J Phys Fitness Sports Med	1(1)	125-131	2012	有
113		Radak Z, <u>Naito H</u> , Taylor AW, Goto S.	Nitric oxide: Is it the cause of muscle soreness?	Nitric Oxide	26(2)	89-94	2012	有
114		Sakamoto A, Sinclair PJ.	Muscle activations under varying lifting speeds and intensities during bench press.	Eur J Appl Physiol	112(3)	1015-1025	2012	有
115		依田充代、 <u>北村薫</u>	ドーピング知識とスポーツ観 の研究—小中学生の調査 から—	運動とスポーツ の科学	18(1)		2012	有
116	*	<u>今関豊一</u>	体育科・保健体育科授業づ くりへの取り組みを。	体育科教育	60(11)	42-43	2012	無
117		<u>山岸明子</u>	青年期から成人期の対人的 枠組みと対人的認知—19年 後の縦断的变化。	順天堂スポーツ健 康科学研究	3(4)	209-218	2012	有
118		<u>山岸明子</u>	大学生のレジリエンスと両親 への態度—スポーツ系学生 と文学部学生の比較—。	順天堂スポーツ 健康科学研究	3(2)	105-111	2012	有
119	*	四方田健二, 須甲理 生, 荻原朋子, 浜上 洋平, 宮崎明世, 三 木ひろみ, 長谷川悦 示, 岡出美則。	小学校教師の体育授業に 対するコミットメントを促す要 因の質的研究。	体育学研究	58	45-60	2012	有
120		前川直也, 廣瀬伸 良, 中村 充, 菅波盛 雄。	高校硬式野球部員の心理 的適性について。	徳山工業専門学 校研究紀要	35	49-58	2012	有
121		中村恭子	移行期のアンケート調査か ら見えてきたダンス教育の 展望と課題。	体育科教育	60(2)	18-21	2012	無

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

122	<u>Shimanouchi N,</u> <u>Suzuki M</u>	Why should we understand the lay concept of health? A health sociological approach.	ヘルスプロモーション・リサーチ	5(1)	2-11	2012	有
123	<u>鈴木美奈子, 島内憲夫, 広沢正孝, 廣津信義.</u>	主観的健康観が健康行動と健康状態に及ぼす影響	ヘルスプロモーション・リサーチ	5(1)	12-23	2012	有
124	<u>鈴木美奈子, 島内憲夫, 広沢正孝, 廣津信義.</u>	主観的健康観と Health Locus of Control との関連	ヘルスプロモーション・リサーチ	5(1)	24-33	2012	有
125	<u>Ikuse T, Ohtsuka Y, Kudo T, Hosoi K, Ohbayashi N, Jimbo K, Aoyagi Y, Fujii T, Nagata S, Shimizu T.</u>	Microarray analysis of gastric mucosa among children with Helicobacter pylori infections.	Pediatr Int	54	319-24	2012	有
126	<u>Kamata A, Obinata K, Niizuma T, Kinoshita K, Shimizu T.</u>	The validity of the criteria for primary infection of Chlamydomydia pneumoniae in children by measuring ELISA IgM antibodies.	J Infect Chemother	18	308-12	2012	有
127	<u>Kitamura Y, Okumura A, Hayashi M, Mori H, Takahashi S, Yanagihara K, Miyata R, Tanuma N, Mimaki T, Abe S, Shimizu T.</u>	Oxidative stress markers and phosphorus magnetic resonance spectroscopy in a patient with GLUT1 deficiency treated with modified Atkins diet.	Brain Dev	34	372-5	2012	有
128	<u>横山和仁, 松川岳久, 丁申, 篠原光代, 西岡笑子</u>	微量元素の胎児期曝露ストレスによる小児発達障害への影響に関する研究.	順天堂医学	58	460	2012	無
129	<u>西岡笑子, 横山和仁, 竹田省, 牧野真太郎, 植竹貴子</u>	環境因子が母体および新生児の健康に及ぼす影響に関する疫学調査.	順天堂医学	58	267	2012	無
130	<u>西岡笑子, 横山和仁, 竹田省, 牧野真太郎, 北村文彦, 松川岳久, 植竹貴子</u>	妊娠後期の母体血中鉛濃度と前期破水との関係	医療環濠研究	9	31	2012	無
131	<u>Goto K, Oda H, Kondo H, Igaki M, Suzuki A, Tsuchiya S, Murase T, Hase T, Fujiya H, Matsumoto I, Naito H, Sugiura T, Ohira Y, Yoshioka T.</u>	Responses of muscle mass, strength and gene transcripts to long-term heat stress in healthy human subjects.	Eur J Appl Physiol	111(1)	17-27	2011	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

132		Kakigi R, <u>Naito H</u> , Ogura Y, Kobayashi H, Saga N, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Katamoto S.	Heat stress enhances mTOR signaling after resistance exercise in human skeletal muscle.	J Physiol Sci	61(2)	131-140	2011	有
133		Ogura Y, Iemitsu M, <u>Naito H</u> , Kakigi R, Kakehashi C, Maeda S, Akema T.	<u>Single bout of running exercise changes LC3-II expression in rat cardiac muscle.</u>	Biochem Biophys Res Commun	414(4)	756-760	2011	有
134	*	Ogura Y, <u>Naito H</u> , Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Yoshihara T, Akema T.	<u>Effects of ageing and endurance exercise training on alpha-actinin isoforms in rat plantaris muscle.</u>	Acta Physiol (Oxf)	202(4)	683-690	2011	有
135		Radak Z, Bori Z, Koltai E, Fatouros IG, Jamurtas AZ, Douroudos II, Terzis G, Nikolaidis MG, Chatzinikolaou A, Sovatzidis A, Kumagai S, Naito H, Boldogh I.	<u>Age-dependent changes in 8-oxoguanine-DNA glycosylase activity are modulated by adaptive responses to physical exercise in human skeletal muscle.</u>	Free Radic Biol Med	51(2)	417-423	2011	有
136		Sakurai Y, Tamura Y, Takeno K, Kumashiro N, Sato F, Kakehi S, Ikeda S, Ogura Y, Saga N, <u>Naito H</u> , Katamoto S, Fujitani Y, Hirose T, Kawamori R, and Watada H.	Determinants of intramyocellular lipid accumulation after dietary fat loading in non-obese men.	J Diab Invest	2	310-317	2011	有
137		Vigeh M, <u>Yokoyama K</u> , Seyedaghamiri Z, Shinohara A, Matsukawa T, Chiba M, Yunesian M	<u>Blood lead at currently acceptable levels may cause preterm labour.</u>	Occup Environ Med	68	231-234	2011	有
138		Ito E, <u>Nogawa H</u> , Kitamura K, Gordon J.W.	The Role of Leisure in the Assimilation of Brazilian Immigrants into Japanese Society: Acculturation and Structural Assimilation through Judo Participation.	International Journal of Sport and Health Science	9	8-14	2011	有
139		<u>今関豊一</u>	保健体育科(保健分野)□ 思考・判断がはたらく授業づ くりをどうする新教育課程の 評価・指導要録.	週間教育資料	1185	22-32	2011	無

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

140		佐藤友樹, <u>加納 實</u> .	マット運動における「伸膝前転」の指導に関する研究.	順天堂スポーツ健康科学研究	3(1)	48-52	2011	有
141		<u>山岸明子</u>	大学生のレジリエンスと両親への態度・認知との関連—性差に着目して—.	順天堂スポーツ健康科学研究	2(3)	87-94	2011	有
142		<u>山岸明子</u>	「成人期女性の現在の母親認知と青年期の 母親認知の関連, 及びその規定要因」への小高氏・瀧 日氏のコメントに対するリプライ.	青年心理学研究	23(1)	104-108	2011	有
143	*	市毛雅之, <u>桜庭景植</u> , 菅波盛雄, 廣瀬伸良.	高校柔道大会の外傷実態調査.	順天堂スポーツ健康科学研究	2(4)	161-166	2011	有
144		松平憲彦, 廣瀬伸良, 中村 充, 菅波盛雄	競技力の違いによる大学生男子柔道選手のストレス—と抑うつとの関係	順天堂スポーツ健康科学研究	3(1)	64-68	2011	有
145	*	渡邊貴裕, 橋本創一, 菅野 敦, 宮崎義成, 尾高邦生.	特別支援学校における体育指導に関する調査研究.	発達障害支援システム学研究	10(2)	79-108	2011	有
146		<u>内藤久士</u>	運動能力を引き出す遺伝と多様性の科学(6)ACTN3遺伝子多型と運動能力.	体育の科学	61(9)	691-696	2011	無
147	*	<u>内藤久士</u>	現代のわが国の子どもの体力とは—文部科学省子どもの各種体力テスト成績から(特集 年代別・疾患別にみた小児のスポーツ医学).	臨床スポーツ医学	28	123-129	2011	無
148	*	<u>内藤久士</u>	子どもの体力の現状と課題.	ストレングス&コンディショニングジャーナル	18	2-6	2011	無
149		中村恭子, <u>広沢正孝</u> , 岩崎香, 鈴木利人, 湯田京子・吉田理恵・木内瑞絵・輪島留美子.	精神科デイケア通所の統合失調症患者を対象としたダンス・アクティビティの試み—他のスポーツ・プログラムとの比較—.	病院・地域精神医学	54(2)	80-82	2011	有
150		澤田亨, 柿木亮, <u>内藤久士</u> , 岡本隆史, 塚本浩二, 武藤孝司.	2型糖尿病罹患に対する飲酒習慣, 有酸素能力の相互作用に関するコホート研究.	運動疫学研究	13	37-43	2011	有
151		黒沢美智子, 稲葉裕, 鈴木大地, 池田若葉, 竹内正次, 島田和典, 深尾宏祐, 長阪裕子, 大西朋, <u>横山和仁</u>	運動習慣と内臓脂肪・血清マーカーとの関連及び内臓脂肪を減らす効果的な運動方法.	順天堂医学	57	73	2011	無

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

152	*	横山和仁	一枚の図ー子どもの発達と環境ー	保健の科学	53(7)	433	2011	無
153	*	横山 和仁, 篠原 光代, 黒澤 美智子, 松川 岳久, デヴィ・ウタミ・イリアニ	環境中の微量元素による小児の情動・認知行動への影響に関する研究	順天堂医学	57	665	2011	無

<図書>

No	※	図書名	著者名	出版社名	総ページ	発行年
1	**	Relative age effect on psychological factors related to sports participation among Japanese elementary school children. P. Salmon, & A.C, Macquet. (eds.) <i>Applied Human Factors and Ergonomics 2016</i>	Yujiro Kawata, Masataka Hirose, 他(分担執筆)	Springer	10	in press
2		健康長寿のためのスポーツロジック(骨格筋と運動ほか)	内藤久士, 田城孝雄他(分担執筆)	NHK 出版	180-196, 243-258	2015
3	**	ジュニアアスリートをサポートするスポーツ医科学ガイドブック 金岡恒治・赤坂清和編(ジュニアスポーツの現状と課題)	内藤久士, 金岡恒治他(分担執筆)	メジカルビュー社		2015
4		平成 27 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告書	浅見俊雄, 内藤久士, 鈴木宏哉, 他(平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査検討委員会)	文部科学省		2015
5	**	子どものスポーツライフ・データ 2015	鈴木宏哉 (SSF スポーツライフ調査委員)	笹川スポーツ財団		2015
6	**	青少年のスポーツライフ・データ 2015	鈴木宏哉 (SSF スポーツライフ調査委員)	笹川スポーツ財団		2015
7		ニュー運動生理学 I(Section 5 運動と筋ー4 骨格筋の肥大と萎縮)	内藤久士, 町田修一, 吉原利典(分担執筆)	真興交易株式会社 医書出版部(東京)	224-33	2014
8		平成 26 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告書	浅見俊雄, 内藤久士 他(平成 26 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査検討委員会)	文部科学省		2014
9		平成 25 年度 体力・運動能力調査報告書	内藤久士, 廣津信義, 関根紀子他	文部科学省		2014
10		Adaptive Skills profile of students: Information for School-Teacher and Traiers. 学校適応スキルプロフィール 適応スキル・支援ニーズのアセスメントと支援目標の立案	渡邊貴裕(分担執筆)	福村出版		2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

11		老化を生物学的にどうとらえるか； 代謝回転と老化	後藤佐多良		90	2014
12		Resilience, psychological stressors, and stress responses in Japanese university athletes. S, Yamamoto (ed.) <i>New Ergonomics Perspective</i>	Yujiro Kawata, Masataka Hirosawa, 他(分担執筆)	CRC press (Taylor & Francis Group)	4	2014
13	**	Relative age effect in physical and psychological development in young Japanese children and associated problems for kindergarten teachers. G, Salvendy, G W, Karwowski (eds.). <i>Advances in Human Factors and Ergonomics 2014</i>	Yujiro Kawata, Masataka Hirosawa, 他(分担執筆)	AHFE conference	6	2014
14	**	こどもの育ちを支える「こどもと健康」	浅見均・渡部かなえ(編)、川 田裕次郎、他(分担執筆)	大学図書出版	54-63(10 項)	2014
15		保健体育科教育のための生理学と 運動生理学。(1 章 身体運動を発 現する骨格筋の機能と適応)	内藤久土、村岡功編	市村出版	1-22	2013
16		ファミリー健康体力向上事業: 体力 測定ハンドブック	内藤久土(監修)	全国スポーツ推進 委員連合(東京)	70	2013
17		心理測定を活かした看護研究(第 1 章 看護研究の必要性和本書の目 的, 第 6 章 研究内容の表現と方法 の選択)	横山和仁	金子書房(東京)	1-7, 103-126	2013
18		心理測定を活かした看護研究	横山和仁, 青木きよ子(編著)	金子書房(東京)	165	2013
19		くらしに役立つ教科書 保健体育	渡邊貴裕(編集代表)	東洋館出版	134	2013
20		幼稚園教諭・保育士をめざす保育 内容「健康」	井筒紫乃・川田裕次郎(編) 他(分担執筆)	圭文社	165	2013
21		Visual Basic Medicine 2nd Edition (Vol5 Skeletal and Muscle System)	Sakuraba K; J Hurly Myers (Supervisor)	Institute of A-V Medical Education Inc(東京)		2012
22		精神保健の課題と支援(ライフサイ クルと精神の健康)	広沢正孝(広沢正孝, 藤井 達也, 四方田清編)	中央法規(東京)	10	2012
23		解離の病理-自己・世界・時代(高 機能広汎性発達障害(アスペルガ ー症候群)と解離)	広沢正孝; 柴山雅俊編集	岩崎学術出版社(東 京)	28	2012
24		TEXT 整形外科 改訂 4 版(筋・腱の 損傷)	桜庭景植	南山堂(東京)	6	2012

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

25		運動器診療最新ガイドライン(下腿疲労骨折の診断・治療指針)	桜庭景植	総合医学社(東京)	3	2012
26		TEXT 整形外科改訂 4 版(筋・腱の損傷(分担執筆))	桜庭景植 : 糸満盛憲, 佐藤啓二, 高橋和久, 吉矢晋一編集	南山堂(東京)	11	2012
27		運動器診療最新ガイドライン(下腿疲労骨折の診断・治療指針(分担執筆))	桜庭景植 : 中村耕三編集	総合医学社(東京)	3	2012
28		理学・運動療法(運動器の痛みプライマリーケア, 膝・大腿部の痛み)	石島旨章, 桜庭景植, 金子和夫	南江堂(東京)	8	2012
29		理学・運動療法(運動器の痛みプライマリーケア 膝・大腿部の痛み)	石島旨章, 桜庭景植, 金子和夫, 菊地臣一編集	南江堂(東京)	8	2012
30	**	ランニング量からみた障害発生. ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング	前澤克彦, 桜庭景植 : 増田雄一編集	文光堂(東京)	5	2012
31	**	精神保健の課題と支援(新・精神保健福祉士養成講座 2)改訂版(第 5 章「精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ」第 1 節～第 3 節担当)	田中純夫	中央法規(東京)	38	2012
32		知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム	橋本創一, 渡邊貴裕, 林安紀子, 久見瀬明日香, 工藤傑史, 大伴潔, 安永啓司, 田口悦津子	福村出版(東京)	180	2012
33		平成 23 年度 体力・運動能力調査報告書	内藤久土, 廣津信義, 関根紀子他	文部科学省	268	2012
34		子どもの体力向上のための取組ハンドブック	内藤久土 他 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査検討委員会)	文部科学省	226	2012
35		幼児期運動指針ガイドブック	内藤久土 他 (幼児期運動指針策定委員会)	文部科学省幼児期運動指針策定委員会	58	2012
36		健康と環境, 中学校保健体育の研究・研究編	下村義夫	保健学研教育みらい	68-83	2012
37		健康教育「最新教育基本用語」	下村義夫	小学館(東京)	10	2011
38		小 1 プロブレム予防改善プログラム～特別支援教育と学級運営・学習活動に使える目的別メニュー-55	橋本創一, 細川かおり, 栗原治子, 渡邊貴裕, 原田智恵子, 尾高邦生	ラピュータ(東京)	96-15, 176-97	2011
39		評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校保健体育】	今関豊一	教育出版(東京)	122	2011

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

40		こころの旅—発達心理学入門	山岸明子	新曜社(東京)	184	2011
41		明日からトライ:ダンスの授業	中村恭子, 宮元乙女, 中村なおみ (全国ダンス・表現運動授業研究会編)	大修館書店(東京)	168	2011
42		我が国の子どもの成育環境の改善にむけて. —成育方法の課題と提言—	内藤久土 (小委員会委員)	日本学会議提言	77	2011
43		子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針	内藤久土 (協力者)	日本学会議提言	36	2011
44		平成 22 年度 体力・運動能力調査報告書	内藤久土, 廣津信義, 関根紀子他	文部科学省	268	2011
45	**	チーム瞬足の運動会必勝バイブル	柳谷登志雄	幻冬舎エデュケーション(東京)	79	2011
46	**	のびのび子育て増刊号(こうすれば, 子どもの足は速くなる)	柳谷登志雄	PHP(東京)		2011
47		スポーツ白書～スポーツが目指すべき未来～	分担執筆:子どものスポーツ、内藤久土 (スポーツ白書編集委員編)	笹川スポーツ財団	102-105	2011
48		The link: between systemizing, one characteristic of the male brain, and persistence in acquiring skills in sports.M. Kumashiro (ed.). <i>Ergonomics for All</i>	Yujiro Kawata, Masataka Hirose, 他(分担執筆)	CRC press (Taylor & Francis Group)	5	2011

<学会発表>

No	※	発表者名	発表標題名	学会名	発表年	開催地
1	***	田中千晶, 井上茂, 宮地元彦, 鈴木宏哉, 田中茂穂	Active Healthy Kids Japan 2016 Report Card の作成について	日本発育発達学会第14回大会	2016年3月	神戸
2	***	岡崎勘造, 鈴木宏哉, 坂本譲, 佐々木桂二	被災地沿岸部・児童の身体活動と自宅周辺環境の変化とその関連:1年後と4年後の比較	日本発育発達学会第14回大会	2016年3月	神戸
3		伊藤弘明, 横山和仁, 松川岳久, 北村文彦	身体活動量と睡眠呼吸障害の関連—日本人男性労働者における横断研究—	第26回日本疫学会学術総会	2016年1月	米子
4		張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久土.	不同時間点実施運動對於肌肉萎縮後恢復期的自體吞噬(Autophagy)的影響.	2015年體育運動學術團體聯合年會暨學術研討會	2015年12月	台湾
5		尾崎隼朗, 亀岡舞, 大野佳南子, 今井由佳, 町田修一, 内藤久土.	若年女性におけるスクワットジャンプ中の動作スピード及びジャンプ高に月経周期のフェーズの違いが与える影響	NSCA ジャパンカンファレンス 2015	2015年12月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

6	***	Ozaki H, Ozaki M, <u>Machida S</u> , <u>Naito H</u> .	The changes of muscle and subcutaneous fat thicknesses in an infant for a year after birth.	International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles	2015年11月	Chiba, Japan
7		野呂啓晃、宮本彩、安部孝駿、山崎一彦、 <u>柳谷登志雄</u>	400mH 走選手のハードリング動作に関する研究	第28回日本トレーニング科学会大会	2015年11月	鹿児島
8		<u>柳谷登志雄</u>	『ランニングの距離は体重の減少と比例関係にある?』	第29回日本トレーニング科学会大会	2015年11月	鹿児島
9	***	伊藤弘明, 北村文彦, 萩典子, 益子友恵, <u>松川岳久</u> , <u>横山和仁</u>	子ども～青年期の運動経験が労働者の現在の運動習慣形成に及ぼす影響	第74回日本公衆衛生学会総会	2015年11月	長崎
10	***	ヴァージェ・モーセン, 西岡笑子, <u>松川岳久</u> , 大谷勝己, <u>横山和仁</u>	Low-level lead exposure during pregnancy and birth weight	第74回日本公衆衛生学会総会	2015年11月	長崎
11		千葉百子, 武田志乃, <u>松川岳久</u> , 篠原厚子, 及川将一, <u>横山和仁</u>	毛髪を用いたマイクロPIXEによる有害元素の汚染モニタリング法の開発	第74回日本公衆衛生学会総会	2015年11月	長崎
12		Sakamoto A, <u>Naito H</u> , Chow CM.	Hyperventilation-induced respiratory alkalosis increases the number of repetitions to be able to perform during resistance training.	2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference	2015年10月	Gold Coast, Australia
13	***	<u>Suzuki, K.</u> , <u>Naito, H.</u> , Sakamoto, A., Hui, SS.	Sports club activity does not reduce sedentary behaviours of Japanese female adolescents	2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference	2015年10月	Gold Coast, Australia
14		Ozaki H, Kitada T, <u>Machida S</u> , <u>Naito H</u> , <u>Katamoto S</u> .	Cycling inhibits age-related decreases in muscle thickness of the lower extremities and maximum oxygen uptake.	2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference	2015年10月	Gold Coast, Australia
15	***	Takamine Y, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, <u>Naito H</u> .	Effects of treadmill running on bone density and strength in young mice.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9月	Tokyo, Japan
16		Sakamoto A, <u>Naito H</u> , Chow CM.	Hyperventilation-induced respiratory alkalosis increases the number of repetitions able to be performed during resistance training.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9月	Tokyo, Japan

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

17	***	Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Kakigi R, Kobayashi H, Naito H.	Effects of exercise before development of type 2 diabetes on glucose and lipid metabolism remain partly following exercise cessation in OLETF rats.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
18	***	Suzuki, K., Naito, H., Balasekaran, G., Song, JK., Liou, YM., Lu, D., Poh, BK., Kijboonchoo, K., Hui, SS.	Japanese adolescents are the most physically fit and active in East and Southeast Asia	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
19		Kakigi R, Watanabe M, Naito H, Iesaki T, Okada T.	A bout of acute exercise attenuates cardiac dysfunction after ischemia/ reperfusion in isolated rat heart.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
20	***	Shouwen Z, Naito H	Changes in the physical fitness of Taiwanese school children in Japan: A cross-sectional study.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
21	***	Pengyu D, Ishihara Y, Naito H.	Physical activity of children and adolescents in medium city in China.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
22	***	Miyamoto A, Yanagiya T	Seasonal changes in physical fitness of adolescent track and field athletes.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
23	***	Kosaka M, Horiguchi Y, Yanagiya T.	A Validation study for estimating vertical stiffness during running in children.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
24	***	Kimura Y, Kosaka M, Machida S, Yanagiya T.	The relationship between toe grip strength and physical fitness in elementary school children.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
25	***	Kamimura A, Kawata Y, Hirosawa M.	The relationship between birth month, physical fitness, motor ability and evaluation from kindergarten teachers for Japanese young children.	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
26	***	Konno R, Kadoya H, Sakuraba K, Matsukawa T, Yokoyama K	Factors Influencing on the Parental Support of Children's Physical Activity	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

27	***	Nishioka E., Yokoyama K., Matsukawa T., Mohsen V., Miida T., Hirayama S., Ueno T., Makino S., Takeda S	Relationship between physical activity during pregnancy and mood changes after delivery in Japanese women	The 2nd Congress, International Academy of Sportology	2015年9 月	Tokyo, Japan
28	***	Vigeh M., Nishioka E., Matsukawa T., Ohtani K., Koda S., Yokoyama K	Prenatal exposure to low-level lead may reduce birth weight	51st Congress of the European Societies of Toxicology	2015年9 月	Porto, Poutugal
29	***	杉山康司, 白井 友加里, 祝原豊, 朝倉徹, 富田寿 人, 辻川比呂斗, 内藤久土.	スポーツ活動種目別にみた小、中 学生の体力水準の現状と課題	第70回日本体力医学 会	2015年9 月	和歌山
30		柿木亮, 吉原利 典, 棗寿喜, 関根 紀子, 小林裕幸, 町田修一, 内藤 久土.	タンパク質摂取がヒト骨格筋 mTOR シグナル伝達に及ぼす影響	第70回日本体力医学 会	2015年9 月	和歌山
31	***	高嶺由梨, 吉原 利典, 都築孝允, 関根紀子, 内藤久 土.	強制運動または高脂肪食摂取が成 長期マウスの発育状態に及ぼす影 響	第70回日本体力医学 会	2015年9 月	和歌山
32		中村智洋, 柿木 亮, 関根紀子, 小 林裕幸, 佐久間 和彦, 内藤久土.	男性短距離走者の骨格筋における ACTN3 タンパク質発現量	第70回日本体力医学 会	2015年9 月	和歌山
33	***	吉原利典, 柿木 亮, 都築孝允, 張 碩文, 棗寿喜, 杉 浦崇夫, 内藤久 土.	若年期の運動習慣がラットヒラメ筋 におけるヒストン修飾に及ぼす影響	第70回日本体力医学 会	2015年9 月	和歌山
34		棗寿喜, 尾崎隼 朗, 吉原利典, 柿 木亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤 久土.	筋電気刺激がヒト骨格筋におけるオ ートファジーに及ぼす影響	第70回日本体力医学 会	2015年9 月	和歌山
35	***	張碩文, 吉原利 典, 高嶺由梨, 町 田修一, 内藤久 土.	筋萎縮からの回復期における運動 実施のタイミングの違いが細胞内シ グナル伝達に及ぼす影響	第70回日本体力医学 会	2015年9 月	和歌山
36	***	都築孝允, 吉原 利典, 関根紀子, 柿木亮, 小林裕 幸, 町田修一, 内 藤久土.	運動時の体温上昇の有無が2型糖 尿病ラットの骨格筋における糖代謝 シグナル伝達系に与える影響	第70回日本体力医学 会	2015年9 月	和歌山

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

37		尾崎隼朗, 棗喜寿, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土.	サイクリング運動の強度の違いがレジスタンス運動後のシグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響	第70回日本体力医学会	2015年9月	和歌山
38		坂本彰宏, 内藤久土.	ハイパーベンチレーションはレジスタンス運動の最大レップ数増加に有効	第70回日本体力医学会	2015年9月	和歌山
39	***	石原美彦, トウホウ, 井口祐貴, 島寄佑, 吉村雅文, 内藤久土.	運動教室に参加する児童の身体活動量	第70回日本体力医学会	2015年9月	和歌山
40	***	トウホウ, 石原美彦, 柳谷登志雄, 内藤久土.	日本と中国の中規模都市における児童の身体活動実態に関する研究	第70回日本体力医学会	2015年9月	和歌山
41		古市真也, 北田友治, 町田修一, 内藤久土.	酸素摂取動態がスプリントエコノミーに及ぼす影響	第70回日本体力医学会	2015年9月	和歌山
42	***	坂本譲, 岡崎勘造, 佐々木桂二, 植木章三, 鈴木宏哉	沿岸部被災地小中学生のストレス免疫指標の変化:3年間の追跡調査	第70回日本体力医学会大会	2015年9月	和歌山
43	***	岡崎勘造, 鈴木宏哉, 佐々木桂二, 坂本譲	沿岸部被災地・小中学生における運動・スポーツ活動, 及び座位時間:4年間の追跡調査からみた経年変化の検討	第70回日本体力医学会大会	2015年9月	和歌山
44	***	鈴木宏哉, 岡崎勘造, 佐々木桂二, 坂本譲	沿岸部被災地小学生の身体活動量と居住・スポーツ環境:4年間の追跡調査による関連性と経年変化の検討	第70回日本体力医学会大会	2015年9月	和歌山
45	***	宮本彩, 今関豊一, 柳谷登志雄.	持久走能力が高い児童の走動作の特徴.	第70回日本体力医学会	2015年9月	和歌山
46		柳谷登志雄, 上坂学.	慣性センサは走動作の下肢キネマティクスを正確にキャプチャできるか?	第70回日本体力医学会	2015年9月	和歌山
47		成ヶ澤史弥, 柳谷登志雄	長距離の歩行で足部アーチと足趾把持力は変化するのか?	第70回日本体力医学会	2015年9月	和歌山
48	***	鈴木宏哉	被災地の子どもの体力と震災後の取り組みについて	九州体育・スポーツ学会 第64回大会	2015年9月	佐賀
49		上村明, 西田敬志, 川田裕次郎, 田中純夫, 広沢正孝	Empathizing -Systemizing モデルと養育態度がメンタルヘルスに及ぼす影響 (1)	日本応用心理学会第82回大会	2015年9月	東京
50		西田敬志, 上村明, 川田裕次郎, 田中純夫, 広沢正孝	Empathizing -Systemizing モデルと養育態度がメンタルヘルスに及ぼす影響 (2)	日本応用心理学会第82回大会	2015年9月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

51		小俣貴洋, 上村明, <u>川田裕次郎</u> , <u>広沢正孝</u>	スポーツ系大学の学生におけるキャンセル依存の現状	日本応用心理学会第82回大会	2015年9月	東京
52	***	<u>渡邊貴裕</u> <u>尾高邦生</u> <u>橋本創一</u> <u>菅野敦</u>	知的障害特別支援学校保健体育科における保健の指導に関する実際と課題	日本特殊教育学会第53回研究	2015年9月	宮城
53		<u>津田龍佑</u> , <u>鈴木宏哉</u>	体力向上と体力に関する知識を理解させることを意図したゴール型・サッカーの指導計画の有効性	日本体育学会第66回大会	2015年8月	東京
54	***	<u>鈴木宏哉</u>	発育発達領域における新たな調査・測定方法及び分析方法に関する提案	日本体育学会第66回大会	2015年8月	東京
55		<u>柳谷登志雄</u> , <u>宮本彩</u> , <u>今関豊一</u>	「長距離走技術の観点」はキネマティクスの分析の結果と対応するか	第66回日本体育学会大会	2015年8月	東京
56		<u>堀口芳起</u> , <u>柳谷登志雄</u>	『ソルボセインを用いたインソールはトレッドミル走時の足圧を軽減させる?』	第66回日本体育学会	2015年8月	東京
57		<u>柳谷登志雄</u> , <u>宮本彩</u> , <u>今関豊一</u>	「長距離走技術の観点」はキネマティクスの分析の結果と対応するか」[8/26]	第66回日本体育学会	2015年8月	東京
58	***	<u>宮本彩</u> , <u>今関豊一</u> , <u>柳谷登志雄</u>	小学校5・6年生の持久走動作をどう指導すべきか?	第66回日本体育学会大会	2015年8月	東京
59	***	<u>鈴木宏哉</u>	発育発達領域における新たな調査・測定方法及び分析方法に関する提案	第66回日本体育学会大会	2015年8月	東京
60		<u>津田龍佑</u> , <u>鈴木宏哉</u>	体力向上と体力に関する知識を理解させることを意図したゴール型・サッカーの指導計画の有効性	第66回日本体育学会大会	2015年8月	東京
61	***	<u>川田裕次郎</u> , <u>上村明</u> , <u>沖和砂</u> , <u>広沢正孝</u>	児童の運動の楽しさにおける相対的年齢効果	第66回日本体育学会大会	2015年8月	東京
62		<u>上村明</u> , <u>川田裕次郎</u> , <u>山田快</u> , <u>沖和砂</u> , <u>広沢正孝</u>	大学生競技者において1年後のアシリート・バーンアウトは予測できるか	第66回日本体育学会大会	2015年8月	東京
63		<u>中西唯公</u> , <u>上村明</u> , <u>沖和砂</u> , <u>川田裕次郎</u> , <u>山田快</u> , <u>小俣貴洋</u> , <u>広沢正孝</u>	体育系大学生における自尊感情と特性自己効力感—精神的健康と運動との関係—	第66回日本体育学会大会	2015年8月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

64	***	井筒紫乃, 川田裕次郎, 森田陽子, 浅井正信	幼児の足蹠形態と足趾の巧緻性と運動能力との関連性について	日本幼児体育学会第11回大会	2015年8月	京都
65		Kawata Y, Kamimura A, Yamada K, Izutsu S, Wakui S, Mizuno M, Hirose M.	Relationship between resilience and stress coping among Japanese university athletes.	The Proceedings of the 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association	2015年7月	Melbourne, Australia
66	***	Izutsu S, Kawata Y, Soutome H, Morita Y.	Relationship between physical features and motor abilities among young children: A study of a specialized kindergarten for teaching sports and physical activity.	The Proceedings of the 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association	2015年7月	Melbourne, Australia
67		棗寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木亮, 町田修一, 内藤久士.	ヒト骨格筋に対する筋電気刺激が筋肥大に関わる細胞内シグナル伝達経路に及ぼす影響.	第23回日本運動生理学学会大会	2015年7月	東京
68	***	吉原利典, 柿木亮, 関根紀子, 高嶺由梨, 棗寿喜, 張碩文, 杉浦崇夫, 町田修一, 内藤久士.	若年期の運動経験はマウス腓腹筋におけるアセチル化ヒストン H3 発現を亢進させる.	第23回日本運動生理学学会大会	2015年7月	東京
69	***	張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士.	筋収縮様式がヒト骨格筋のタンパク質合成関連シグナル伝達に及ぼす影響.	第23回日本運動生理学学会大会	2015年7月	東京
70		柿木亮, 吉原利典, 尾崎隼朗, 関根紀子, 内藤久士.	筋収縮様式がヒト骨格筋のタンパク質合成関連シグナル伝達に及ぼす影響.	第23回日本運動生理学学会大会	2015年7月	東京
71		尾崎隼朗, 棗寿喜, 柿木亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士.	サイクリング運動の強度の違いが細胞内シグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響.	第23回日本運動生理学学会大会	2015年7月	東京
72		Ishihara Y, Naito H, Sakamoto A, Ozaki H, Yoshimura M.	Relationship between aerobic fitness and match activity profiles of Japanese young soccer referees.	The 20th Annual Congress of European College of Sports Science	2015年6月	Malmö, Sweden
73	***	Pengyu D, Naito H.	Longitudinal change in physical activity of children in Hunan, China.	The 20th Annual Congress of European College of Sports Science	2015年6月	Malmö, Sweden
74	***	Okazaki K., Suzuki K., Sakamoto Y., Sasaki K., Suzuki H.	Comparison of physical activity between adolescents living in a coastal area affected by the Great East Japan Earthquake and Tsunami and those outside an affected area	20th European College of Sports Science Congress	2015年6月	Malmö, Sweden

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

75		Hiroshima M, Hagi N, <u>Yokoyama K</u> , Kitamura F, Yamazaki Y, Mashiko T, Kitamura M.	The relationships of the workplace environment with psychiatric consultation rate and mental health.	WPA Regional Congress Osaka Japan 2015	2015年6月	大阪
76		<u>内藤久士</u>	特別講演「温熱負荷と骨格筋」	第80回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会	2015年6月	長野
77	***	<u>鈴木宏哉</u> , <u>内藤久士</u> , Stanley Sai-chuen Hui	日本における組織的スポーツ活動が果たす役割の特異性～The Asia-Fit Study による国際比較データから～	第18回日本運動疫学会学術総会	2015年6月	名古屋
78		<u>Ozaki H</u> , <u>Natsume T</u> , <u>Abe T</u> , <u>Machida S</u> , <u>Naito H</u> .	Effect of neuromuscular electrical stimulation with blood flow restriction on muscle size and strength.	The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting	2015年5月	San Diego, USA
79		<u>Kawanishi N</u> , <u>Naito H</u> , <u>Shuichi Machida S</u> .	Role Of Toll-like Receptor 4 In Cast Immobilization-induced Muscle Atrophy.	The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting	2015年5月	San Diego, USA
80		<u>Kitada T</u> , <u>Kawai S</u> , <u>Nakamura A</u> , <u>Sakuma K</u> , <u>Machida S</u> , <u>Naito H</u> .	Lower Limb and Respiratory Muscle Oxygenation During 800-m Running.	The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting	2015年5月	San Diego, USA
81	***	<u>Suzuki K</u> , <u>Naito H</u> , Hui SS, Balasekaran G, Song JK, Liou YM, Lu D, Poh BK, Kijboonchoo K	School sports club promotion reduces physically unfit and inactive adolescents: the Asia-fit Study	The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting	2015年5月	San Diego, USA
82	***	Hui SS, <u>Suzuki K</u> , <u>Naito H</u> , Balasekaran G, Song JK, Liou YM, Lu D, Poh BK, Kijboonchoo K	How Fit and Active in Asian Youth? The Asia-fit Study	The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting	2015年5月	San Diego, USA
83	***	Takahiro Watanabe	Health and physical education in special needs schools for intellectual disability in Japan.	International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities Americas Regional Congress	2015年5月	Honolulu, USA
84		<u>井筒紫乃</u> , <u>川田裕次郎</u> , <u>森田陽子</u>	幼児の足蹠形態と足趾の巧緻性	日本生理人類学会第72回大会	2015年5月	北海道

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

85	***	ヴァージェ・モーゼン, 横山和仁, 大谷勝己, 篠原厚子, 松川岳久	鉛およびその他の重金属にばく露を受けた女性から産まれた幼児の発育:性別による違い	第 88 回日本産業衛生学会	2015 年 5 月	大阪
86		藤永周一郎, 櫻谷浩志, 山田哲史, 漆原康子, 清水俊明.	ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ投与後の有害事象の検討	第 118 回日本小児科学会学術集会	2015 年 4 月	大阪
87	***	Tsuzuki T, Nakamoto H, Kobayashi H, Goto S, Ichinoseki-Sekine N, <u>Naito H.</u>	Elevated oxidative stress in type 2 diabetic OLETF rat liver.	Experimental Biology 2015	2015 年 3 月	Boston, USA
88	***	Yoshihara T, <u>Machida S,</u> Kurosaka Y, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Takamine Y, Sugiura T, <u>Naito H.</u>	Immobilization-induced rat skeletal muscle atrophy enhances histone modification through HDAC4.	Experimental Biology 2015	2015 年 3 月	Boston, USA
89	***	Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Tsuzuki T, <u>Machida S, Naito H.</u>	Effect of long-term voluntary running on bone tissue in mice.	Experimental Biology 2015	2015 年 3 月	Boston, USA
90	***	Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Yoshihara T, Takamine Y, Kobayashi H, <u>Naito H.</u>	Effects of long-termvoluntary exercise on the respiratory muscles in young type 2 diabetic rats.	Experimental Biology 2015	2015 年 3 月	Boston, USA
91	***	鈴木宏哉, 波多野義郎, 春日晃章	ICHPER・SD 学会における子どもの体力・体格・生活習慣等調査とその意義	第14回日本体育測定評価学会	2015 年 3 月	金沢
92	***	今野 亮, <u>桜庭景植</u>	保護者の身体活動サポートと子どもの運動習慣との関連ー小学生から高校生を対象にしてー	第 26 回日本コーチング学会	2015 年 3 月	東京
93	***	鄧鵬宇, 柳谷登志雄, <u>内藤久土.</u>	日本と中国の中規都市における児童の身体活動に関する研究.	第 13 回日本発育発達学会大会	2015 年 3 月	東京
94		石原美彦, <u>内藤久土,</u> 井口祐貴, 島寄佑, 吉村雅文.	GPS を用いたサッカー教室中の身体活動量の測定に関する研究.	第 13 回日本発育発達学会大会	2015 年 3 月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

95	***	吉原利典, 柿木亮, 関根紀子, 都築孝允, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士.	発育期の運動がラット骨格筋のHDAC 発現量に及ぼす影響. 第22回日本健康体力栄養学会	第22回日本健康体力栄養学会	2015年3月	千葉
96		松川岳久, 横山和仁, 平田岳史, 林英男, 篠原厚子, 千葉百子, 大森由紀, 篠原光代, 権章武	:福島に住む児童の乳歯エナメル質を用いた胎児期有害元素曝露評価の基礎検討.	第85回日本衛生学会学術総会	2015年3月	和歌山
97	***	佐々木和登, 砂見綾香, 鈴木良雄, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 安田純, 日田安寿美, 多田由紀, 川野因, 順天堂大学運動部栄養調査(JNAS)グループ.	運動部に所属する男子大学生の栄養素摂取状況に関する研究.	日本栄養改善学会、関東・甲信越支部 第2回学術総会	2015年2月	東京
98		松井こと子, 高橋健,, 田中登, 小林真紀, 秋元かつみ, 稀代雅彦, 板谷慶一, 宮地鑑, 清水俊明.	運動負荷心エコーによる拡張早期の左室内圧較差の発生機序の解析 - 流体力学を用いた新たな左室拡張能の 解析方法の検討 -.	第14回心筋会	2015年2月	東京
99	***	川田裕次郎, 桐野衛二, 広沢正孝	fMRIを用いたマインド・リーディングの神経基盤の解明 - EmpathizingとSystemizingの認知スタイルに着目して -	第17回薬物脳波学会発表抄録	2014年6月	静岡
100		宇田川和也, 広沢正孝, 川田裕次郎, 上村明, 飯嶋正博	絵画構造と Empathizing-Systemizing モデル - 精神障害者の絵画療法へ寄与に向けて -	日本健康心理学会第27回大会	2014年11月	沖縄
101	***	張碩文, 内藤久士	在日台湾學校的中學生體適能(在日台湾中華學校中學生の体力に関する研究)	2014年體育運動學術團體聯合年會暨學術研討會(2014 體育運動學術團體聯合年會・学会)	2014年12月	台湾
102	***	尾高邦生 渡邊貴裕 橋本創一 菅野敦	特別支援学校における健康・運動プログラムの検討(2)	日本発達障害支援システム学会2014年度研究大会	2014年12月	千葉
103		尾崎隼朗, 棗寿喜, 渡辺圭佑, 町田修一, 内藤久士	大腿四頭筋への低強度での電気刺激と血流制限の組み合わせが筋肥大及び筋力増加に及ぼす影響	第27回日本トレーニング科学大会	2014年11月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

104		青木和浩,河村剛光,中丸信吾,渡辺圭祐	小学生の跳躍能力とバウンディングの関係	日本陸上競技学会第13回大会	2014年11月	北海道
105		Ohtomo Y, Umino D, Takada M, Niijima S, Fujinaga S, Shimizu T.	A traditional herbal medicine, Yokukansan, has beneficial effects for nocturnal enuresis.	16th Annual Meeting of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists.	2014年11月	日光
106		Sakamoto A, Naito H, Chow CM.	Effects of short vs. long hyperventilation on repeated sprint performance and muscle activation.	2014 Australian Conference of Science and Medicine in Sport (ACSMS)	2014年10月	Canberra, Australia
107		中村恭子, 広沢正孝, 細見修, 山倉文幸, 鈴木利人, 久保田陵一, 三芳理恵, 玉田和美	精神科リハビリテーションとしてのスポーツの有効性—運動強度や難度が心理的・生理的ストレス反応に及ぼす影響—	第57回日本病院・地域精神医学会	2014年10月	仙台
108		藁寿喜, 尾崎隼朗, 町田修一, 内藤久士	受動的な関節動作と血流制限を組み合わせたトレーニングが筋肥大および筋力に及ぼす影響	第69回日本体力医学会大会	2014年9月	長崎
109		尾崎隼朗, 北田友治, 町田修一, 内藤久士	ランニング及びサイクリングが大腿四頭筋の筋厚と筋酸素動態に与える影響	第69回日本体力医学会大会	2014年9月	長崎
110		石原美彦, 吉村雅文, 町田修一, 内藤久士	暑熱環境下におけるサッカー競技中のレフェリーの脱水状態	第69回日本体力医学会大会	2014年9月	長崎
111	***	都築孝允, 篠崎昇平, 中本英子, 小林裕幸, 後藤佐多良, 金木正夫, 内藤久士	定期的な運動は2型糖尿病ラットの肝臓 S-ニトロソ化 Akt を軽減する	第69回日本体力医学会大会	2014年9月	長崎
112	***	高嶺由梨, 関根紀子, 吉原利典, 都築孝允, 内藤久士	マウスにおける運動開始時期の違いが骨強度に与える影響	第69回日本体力医学会大会	2014年9月	長崎
113		関根紀子, 都築孝允, 吉原利典, 高嶺由梨, 小林裕幸, 内藤久士	2型糖尿病発症に伴うラット横隔膜筋張力の変化	第69回日本体力医学会大会	2014年9月	長崎
114		柿木亮, 内藤久士, 吉原利典, 坂本彰宏, 中村智洋, 小林裕幸, 岡田隆夫	伸張性収縮運動によるヒト骨格筋 mTOR シグナルの増加は鍛錬度によって異なる	第69回日本体力医学会大会	2014年9月	長崎

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

115		杉浦崇夫, 芝口翼, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 吉岡利忠	筋損傷後の回復過程におけるミオシン重鎖分子種に及ぼす異なる温度刺激の影響	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
116	***	トウホウウ, 周亮福, 伍文権, 町田修一, 内藤久土	中国中規模都市における青少年の生活習慣と肥満との関連性	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
117		村田亮馬, 北田友治, 町田修一, 内藤久土	外側広筋の酸素化レベルと長距離走のパフォーマンスとの関連性	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
118		北田友治, 村田亮馬, 河合祥雄, 佐久間和彦, 仲村明, 町田修一, 内藤久土	最大下および最大走運動中の呼吸筋における酸素動態	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
119		坂本彰宏, 内藤久土	繰り返し最大運動のパフォーマンスに有効となるハイパーベンチレーション実施時間の解明	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
120		張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久土	再接地を行うタイミングの違いが萎縮時の細胞内シグナル伝達に及ぼす影響	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
121	***	吉原利典, 町田修一, 黒坂裕香, 柿木亮, 関根紀子, 杉浦崇夫, 内藤久土	ギプス固定による筋萎縮がラット腓腹筋におけるヒストン修飾および HDAC 発現量の変化に及ぼす影響	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
122		芝口翼, 杉浦崇夫, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 太平充宣, 吉岡利忠	筋損傷後の異なる温度刺激が筋再生過程における筋線維組成の変化に及ぼす影響	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
123		門屋悠香, 鹿倉二郎, 桜庭景植	足関節捻挫経験がしゃがみこみ動作に及ぼす影響	第 69 回日本体力医学会大会	2014 年 9 月	長崎
124	***	柳沼志帆, 門屋悠香, 桜庭景植, 鈴木良雄.	小学校低学年児童の運動習慣と生活習慣の関連.	第 69 回日本体力医学会	2014 年 9 月	長崎
125	***	早田典子, 込山洋美, 春名英典, 須藤ゆう, 山口市恵, 福嶋恵, 椿原麻由子, 庄野哲夫, 田中恭子, 清水俊明.	成長ホルモン治療導入前後における当院での取り組み～子どものアドヒアランスと QOL 向上のために～.	第 48 回日本小児内分泌学会	2014 年 9 月	浜松
126		小崎亮輔, 菅波盛雄	中学校柔道履修者のイメージ調査	第 47 回日本武道学会	2014 年 9 月	福山

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

127	***	渡邊貴裕 橋本創一 佐藤功一 小泉浩一 菊池哲平	発達と障害特性に応じたサポートを考える(健康・スポーツ教育の視点)	日本特殊教育学会第52回大会	2014年9月	高知
128	***	渡邊貴裕 尾高邦生 橋本創一 菅野敦	特別支援学校における健康・運動プログラムの検討(1)	日本発達障害学会第49回研究大会	2014年9月	宮城
129	***	Yokoyama K., Ito H., Kitamura F., Hagi N., Mashiko T., Matsukawa T.	Exercise practice is molded by past experience of athletics in Japanese workers.	13th International Congress of Behavioral Medicine	2014年8月	Groningen, Netherlands
130	***	Urakawa K., Yokoyama K., Ito H., Matsukawa T., Kitamura F	Exercise practice may increase stress coping ability and decrease depression among Japanese office workers.	13th International Congress of Behavioral Medicine	2014年8月	Groningen, Netherlands
131		安田純, 砂見綾香, 佐々木和登, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 多田由紀, 日田安寿美, 鈴木良雄, 川野因.	体育系部活動に所属する大学生の朝食欠食に関する実態把握.	第61回日本栄養改善学会学術総会	2014年8月	横浜
132		佐々木和登, 砂見綾香, 石原淳子, 鈴木良雄, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 安田純, 日田安寿美, 多田由紀, 川野因, 順天堂大学運動部栄養調査(JNAS)グループ	大学生アスリートを対象とした半定量食物摂取頻度調査票の検討.	第61回日本栄養改善学会学術総会	2014年8月	横浜
133		砂見綾香, 佐々木和登, 安田純, 鈴木良雄, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 日田安寿美, 多田由紀, 川野因.	大学生アスリートの生活習慣および10食品群の摂取頻度に関する実態調査.	第61回日本栄養改善学会学術総会	2014年8月	横浜

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

134		<u>Kawata, Y., Hirosawa, M., Kamimura, A., Yamada, K., Kato, T., Oki, K., Wakui, S., Izutsu, S.,</u>	Resilience, psychological stressors, and stress responses in Japanese university athletes.	The 10th Pan-Pacific Conference on Ergonomics	2014年8 月	東京
135		<u>Kawata, Y., Hirosawa, M., Kamimura, A., Yamada, K., Kato, T., Oki, K., Wakui, S., Izutsu, S., Mizuno, M</u>	A Role of Resilience in Psychological Stressors and Stress Responses among Japanese University Athletes.	The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress	2014年8 月	東京
136		<u>Yamada, K., Kamimura, A., Kato, T., Oki, K., Kawata, Y., Hirosawa, M.</u>	The Effect of Unity on the Mental Health of Sports teams.	The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress	2014年8 月	東京
137	***	<u>Kamimura, A., Kawata, Y., Izutsu, S., Yamada, K., Hirosawa, M</u>	The Relative Age Effect on Physical Education and Other University Students.	The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress	2014年8 月	東京
138		<u>Oki, K., Kamimura, A., Kato, T., Yamada, K., Kawata, Y., Hirosawa, M.</u>	Effect of doing part time job on mental health among Japanese sports university students.	The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress	2014年8 月	東京
139		<u>Hochi Y, Mizuno Nakayama T, Kitamura M, Honda R, Kitamura K</u>	A Study on the Effects of Team Building for University Baseball Team in Japan: Focused on Morale and Belief in Cooperation	The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress	2014年8 月	東京
140		<u>山田快, 上村明, 沖和砂, 加藤恭 章, 川田裕次郎, 広沢正孝</u>	スポーツチームの一体感が選手のメ ンタルヘルスに及ぼす影響	日本体育学会第 65 回 大会	2014年8 月	岩手
141	-	<u>沖和砂, 上村明, 加藤恭章, 山田 快, 川田裕次郎, 広沢正孝</u>	競技を行う体育系学生の居住形態 の違いがストレスの認知と精神 的健康に与える影響.	日本体育学会第 65 回 大会	2014年8 月	岩手
142		<u>加藤恭章, 広沢 正孝</u>	Body Schema 能力測定を目的とした Mental Rotation 課題の検討.	日本体育学会第 65 回 大会	2014年8 月	岩手

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

143	***	山本浩佑,長登健,高橋季絵,渡辺泰弘,野川春夫	地域スポーツクラブ入会に対する子育て世代の意識～スポーツライフスタイルに着目して～	日本体育学会第 65 回大会	2014 年 8 月	岩手
144	***	伊藤央二, 山口志郎, 岡安功, 北村薫	日本とカナダ間における青年の野外スポーツの参加動機と阻害要因の類似	日本体育学会第 65 回大会	2014 年 8 月	岩手
145		荻原朋子	仲間学習モデルの体育授業への適用課程とその効果。体育科教育学における教授・学習指導論の未来～学習指導モデルの観点から	日本体育学会第 65 回大会体育科教育学専門領域シンポジウム	2014 年 8 月	岩手
146		綾部誠也,石崎聡之,鈴木宏哉,青葉幸洋,吉村雅文	クラブチーム所属小中学生における夕食摂取のタイミングが身体組成を介したサッカー競技に果たす役割	第 12 回フットボール学会	2014 年 8 月	東京
147		尾崎隼朗, 内藤久士	コンバインドサーキットトレーニングが中高齢女性の筋サイズとピーク酸素摂取量に及ぼす影響	第 22 回日本運動生理学会大会	2014 年 7 月	岡山
148		芝口翼, 杉浦崇夫, 後藤勝正, 吉原利典, 内藤久士, 大平充宣, 吉岡利忠	筋損傷後の異なる温度刺激がラットヒラメ筋再生過程に及ぼす影響	第 22 回日本運動生理学会大会	2014 年 7 月	岡山
149		松井こと子, 高橋健, 田中登, 小林真紀, 秋元かつみ, 稀代雅彦, 板谷慶一, 宮地鑑, 清水俊明.	運動負荷心エコーによる拡張早期の左室内圧較差の発生機序の解析 流体力学を用いた新たな左室拡張能の解析方法の検討.	第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2014 年 7 月	岡山
150		Yamada, Y., Kinooka, Y., Ebara, T., Mizuno, M., Hirose, M., Kamijima, M.	Descriptive evidence of the work-family compensation among Japanese midwives: Using the Multiple Role Map program.	The 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics 2014	2014 年 7 月	Kraków, Poland
151	***	Kawata, K., Kamimura, A., Izutsu, S., Yamada, K., Iizima, M., Mizuno, M., Hirose, M.	Relative age effect in physical and psychological development in young Japanese children and associated problems for kindergarten teachers.	Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014	2014 年 7 月	Kraków, Poland
152	***	Izutsu, S., Kawata, Y., Kamimura, A., Yamada, K., Hirose, M.	The Relative Age Effect on Physical Size and Motivation for Sports Continuity among 11-12-year-old Track and Field Athletes.	Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014	2014 年 7 月	Kraków, Poland

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

153		Kamimura, A., <u>Kawata, Y.</u> , Yamada, K., Oki, K., <u>Hirosawa, M</u>	Relationships between Resilience, Stressors, and Athlete Burnout among Japanese University Athletes.	Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014	2014年7月	Kraków, Poland
154		都築孝允, 中本英子, 小林裕幸, 後藤佐多良, <u>内藤久士</u>	Elevated oxidative stress in OLETF (type 2 diabetes model) rat liver	37回日本基礎老化学会	2014年6月	愛知
155		Matsui K, Takahashi K, Tanaka N, Kobayashi M, Miura M, Kishiro M, Itatani K, Miyaji K, <u>Shimizu T.</u>	Mechanism of early diastolic intraventricular pressure gradients during exercise.	25th American Society of Echocardiography, Scientific session 2014	2014年6月	Portland, USA.
156		Takahashi K, Tanaka N, Matsui K, Akimoto K, Kishiro M, Nii M, Takigiku K, Toyono M, Iwashima S, Itatani K, Miyaji K, <u>Shimizu T.</u>	The relation between early diastolic intraventricular pressure gradient and myocardial deformation of the left ventricle.	25th American Society of Echocardiography, Scientific session 2014	2014年6月	Portland, USA.
157	***	大森由紀、 <u>横山和仁</u> 、 <u>松川岳久</u> 、 角田弘子、宮田美恵子、鈴木良雄、 <u>桜庭景植</u> 、 <u>門屋悠香</u> 、 <u>柳沼志帆</u> 、 <u>鯉渕絵理</u> 。	幼児の毛髪中有害元素濃度とBDHQから推定された食事摂取量との関係。	第84回日本衛生学会学術総会	2014年5月	岡山
158	***	Yoshihara T, Kurosaka M, Kakigi R, Takamine Y, <u>Machida S.</u> Sugiura T, <u>Naito H.</u>	Alterations in HDACs expressions in response to endurance training in rat plantaris muscle.	The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting	2014年5月	Florida, USA
159		Nakagata T, <u>Naito H.</u> , <u>Katamoto S.</u>	The Effect Of Transdermal Nicotine Patch On Energy Expenditure.	The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting	2014年5月	Florida, USA

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

160	***	Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Tsuzuki T, Yoshihara T, <u>Naito H.</u>	Temporary Termination During Long-term Voluntary Exercise Increases Exercise Volume After Exercise Resumed In Mice.	The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting	2014年5月	Florida, USA
161	***	<u>松川岳久, 横山和仁, 平田岳史, 林英男, 篠原厚子, 千葉百子, 大森由紀</u>	乳歯エナメル質を用いた胎児期有害元素曝露評価法の開発	第84回日本衛生学会学術総会	2014年5月	岡山
162	***	<u>大森由紀, 横山和仁, 松川岳久, 角田弘子, 宮田美恵子, 鈴木良雄, 桜庭景植, 門屋遥香, 柳沼志保, 鯉渕絵里</u>	幼児の毛髪中有害元素濃度とBDHQから推定された食事摂取量との関係.	第84回日本衛生学会学術総会	2014年5月	岡山
163	***	Tokita A, Nakano S, Minowa K, Suzuki M, <u>Shimizu T.</u>	Vitamin D status in infants and young children in Japan.	2014 PAS & ASPR Joint Meeting	2014年5月	Vancouver, Canada.
164		Suzuki M, Nakano S, Tokita A, Tanaka T, <u>Shimizu T.</u>	Drug susceptibility and clinical effectiveness of neuraminidase inhibitors in children with Type B influenza virus.	2014 PAS & ASPR Joint Meeting	2014年5月	Vancouver, Canada.
165		Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Machida S, <u>Naito H.</u>	Changes in stress protein expression in skeletal muscle before the onset of metabolic abnormalities in type 2 diabetic rats.	The 21th International Congress on Sport Science for Students	2014年4月	Budapest
166	***	<u>本田由佳, 鈴木光幸, 箕輪圭, 東海林宏道, 大塚宜一, 清水俊明.</u>	小学校高学年男児における運動習慣が骨密度および体組成に与える影響.	第117回日本小児科学会学術集会総会	2014年4月	名古屋
167	***	Yoshihara T, Kakigi R, Tsuzuki T, Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, <u>Naito H.</u>	Changes in HDAC expressions in response to acute heat stress in skeletal muscle.	13th Biennial Advances in Skeletal Muscle Biology in Health & Disease Conference	2014年3月	Gainesville, Florida, USA

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

168		<u>広沢正孝</u>	統合失調症と広汎性発達障害	第 14 回日本外来臨床精神医学会学術大会, シンポジウム	2014 年 2 月	東京
169	***	Takamine Y, Tsuzuki T, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, <u>Naito H.</u>	The effects of voluntary running during the growing period on bone tissue in Type 2 diabetic rats.	13th Biennial Advances in Skeletal Muscle Biology in Health & Disease Conference	2014 年 3 月	Gainesville, Florida, USA
170	***	都築孝允, <u>町田修一</u> , <u>内藤久士</u>	2 型糖尿病の予防に対する運動の効果 ~OLETF ラットを用いた検討~	第 160 回日本体力医学会関東地方会	2014 年 3 月	東京
171		小熊伸英, 砂見綾香, 佐々木和登, 中井あゆみ, 安田純, 横山友里, 吉崎貴大, 多田由紀, 日田安寿美, <u>鈴木良雄</u> , 川野 因, 順天堂大学運動部栄養調査 (JNAS) グループ.	運動部に所属する大学生の食生活について.	第 160 回日本体力医学会関東地方会	2014 年 3 月	東京
172		砂見綾香, 佐々木和登, 小熊伸英, <u>鈴木良雄</u> , 石原淳子, 中井あゆみ, 安田純, 横山友里, 吉崎貴大, 多田由紀, 日田安寿美, 川野因, 順天堂大学運動部栄養調査 (JNAS) グループ.	. 大学生アスリートを対象とした半定量食物摂取頻度調査票の妥当性検討.	第 160 回日本体力医学会関東地方会	2014 年 3 月	東京
173		柿木亮, <u>内藤久士</u> , 吉原利典, 岡田隆夫	熱ストレスがラット骨格筋 mTOR シグナルと HSP 発現に及ぼす影響	第 91 回 日本生理学会大会	2014 年 3 月	鹿児島
174	***	<u>柳谷登志雄</u>	小学生の長距離走技術の観点・評価項目をキネマティクスデータから検討する	日本体育測定評価学会, シンポジウム「動きを評価する」	2014 年 3 月	
175		<u>横山和仁</u>	環境と健康に関する国際共同研究と公衆衛生活動 (グループ研究賞受賞)	平成 25 年度東京都医師会 医学研究賞・グループ研究賞 受賞記念講演会	2014 年 3 月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

176	***	川田裕次郎、上村明、山田快、井筒紫乃、広沢正孝	幼児期における相対的年齢効果に性差は存在するのか？—体格、運動能力、運動に対する意識、保育者からの評価に関する検討—	日本スポーツ心理学会 第40回大会	2013年11月	東京
177	***	上村明、川田裕次郎、山田快、広沢正孝	保育者はどのような視点で幼児の身体活動を評価するのか？—幼児の体格、運動能力、運動に対する意識との関連—	日本スポーツ心理学会 第40回大会	2013年11月	東京
178	***	Yujiro. Kawata, Eiji Kirino, Hiroto Ito, Nobuyuki Nakajima & Masataka Hirotsawa	Association between Systemizing and Brain Activation during Information Processing of a Baseball Hitting-Specific Visuospatial Go/No-Go Task: An fMRI Study	13th World Congress of Sports Psychology	2013年7月	Beijing, China
179	***	Yujiro Kawata, Masahiro Iijima, Shino Izutsu, Akari Kamimura, Kai Yamada & Masataka Hirotsawa	Development of the Perceived Physical Competence Scale for Young Children: A study on to 4-5-Year Old Japanese Boys and Girls	13th World Congress of Sports Psychology	2013年7月	Beijing, China
180	***	Yujiro Kawata, Akari Kamimura, Shino Izutsu, Kai Yamada, Masahiro Iijima & Masataka Hirotsawa	Does the Relative Age Effect Exist in Physical Size, Motor Ability, Awareness of Physical Activity, and Kindergarten Teachers' Evaluation of Young Japanese Children?	13th World Congress of Sports Psychology	2013年7月	Beijing, China
181		Hiroto Ito, Yujiro Kawata, Eiji Kirino, Nobuyuki Nakajima, & Masataka Hirotsawa	Brain region related to the better performance of baseball players in the baseball hitting-specific visuospatial task: An fMRI study	13th World Congress of Sports Psychology	2013年7月	Beijing, China
182	***	Yuki. Kawamura, Yujiro Kawata, Akari Kamimura, Shino Izutsu, Kai Yamada, Nobuyuki Nakajima, & Masataka Hirotsawa	Understanding Teachers' Verbal Instructions that Promote Sports Motivation to Dodge Ball Games among Young Japanese Children: Focusing on the Number of Steps Taken and Instances of Ball Touching	13th World Congress of Sports Psychology	2013年7月	Beijing, China
183		Akari Kamimura, Yasuyuki Yamada, Yujiro Kawata, Kai Yamada, Sawako Wakui, Masahiro Iijima & Masataka Hirotsawa	Relationship between Athlete Burnout and Depression among Japanese University Athletes	13th World Congress of Sports Psychology	2013年7月	Beijing, China

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

184		Kai Yamada, Hirokazu Arai, Takeshi Nakazawa, <u>Yujiro</u> <u>Kawata</u> , & <u>Masataka</u> <u>Hirosawa</u>	Development of the Unity Scale for Sports Team	13th World Congress of Sports Psychology	2013年7月	Beijing, China
185		Takanori Kato, <u>Masataka</u> <u>Hirosawa</u> , <u>Yujiro</u> <u>Kawata</u> , & Nobuyuki Nakajima	Does a Mental Rotation Task Reflect the Body Schema? A comparison of before and after practice	13th World Congress of Sports Psychology	2013年7月	Beijing, China
186	***	松川勇樹、 <u>北村</u> <u>薫</u>	運動組織に加入していない子供の特徴分析と支援の検討	日本スポーツマネジメント学会第6回大会	2013年12月	つくば
187	***	Chang Shuo-wen, <u>Naito H.</u>	A Comparison of Physical Fitness of junior high school students between Chinese School and Japanese public school in Japan.	The 6 th Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science	2013年11月	Taipei, Taiwan
188		Sakamoto A, <u>Naito H.</u> , Chow CM.	Hyperventilation as a strategy for improved repeated sprint performance.	2013 Asics Conference of Science and Medicine in Sport(ACSMS)	2013年10月	Phuket, Thailand
189		<u>渡邊貴裕</u>	ダウン症児の発達特性と教育支援を考える-学習,言語,運動,行動,健康について-	日本特殊教育学会第51回大会	2013年9月	東京
190	***	Takahiro Watanabe	A report on a curriculum in physical education of a school for students with special needs in japan	3th IASSIDD Asia-Pacific Regional conference	2013年8月	東京
191		Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Sugiura T, Powers SK, Kawai S, <u>Naito H.</u>	Effect of heart stress on mechanical ventilation-induced atrophy in rat diaphragm.	Experimental Biology 2013	2013年8月	Boston, USA
192	***	<u>今関豊一</u>	小学校体育授業バスケットボールにおけるボールからはなれる動きの学習に関する検討.	日本スポーツ教育学会	2013年11月	愛知
193		石原美彦, <u>内藤</u> <u>久士</u> , 吉村雅文.	心拍数と移動速度を用いたエネルギー消費量の推定.	第68回日本体力医学会大会	2013年9月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

194		柿木亮, 内藤久土, 吉原利典, 尾崎隼朗, 都築孝允, 小林裕幸, 岡田隆夫.	最大下自転車運動によるヒト骨格筋Akt/mTOR シグナル伝達の経時変化.	第 68 回日本体力医学会大会	2013 年 9 月	東京
195		関根紀子, 柿木亮, 三浦 晋, 内藤久土.	ホエイタンパク質分解物の長期摂取は骨格筋における脂肪酸酸化を促進し体脂肪量の蓄積を抑制する.	第 68 回日本体力医学会大会	2013 年 9 月	東京
196	***	都築孝允, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土.	発育期の運動が 2 型糖尿病ラットの耐糖能および脂質代謝に与える影響.	第 68 回日本体力医学会大会	2013 年 9 月	東京
197	***	トウホウウ, 内藤久土.	中国湖南省における肥満児の身体活動量に関する研究.	第 68 回日本体力医学会大会	2013 年 9 月	東京
198	***	高嶺 由梨, 都築孝允, 関根紀子, 吉原利典, 内藤久土.	発育期における自発走運動が 2 型糖尿病ラットの骨組織に与える影響.	第 68 回日本体力医学会大会	2013 年 9 月	東京
199		中村 智洋, 柿木亮, 関根紀子, 小林裕幸, 佐久間和彦, 内藤久土.	男性短距離走者の骨格筋における ACTN3 タンパク質発現量と筋線維組成.	第 68 回日本体力医学会大会	2013 年 9 月	東京
200	***	尾崎隼朗, 柿木亮, 内藤久土.	ラット骨格筋の過負荷による mTOR シグナル伝達経路の活性化に持久性運動における強度の違いが及ぼす影響.	第 68 回日本体力医学会大会	2013 年 9 月	東京
201	***	Sato T, Sakuraba K, Tsuchiya Y, Wakamatsu K, Ochi E.	A study of bone metabolism markers and bone quality markers in collegiate male skiers.	International Osteoporosis Foundation 3rd Asia Pacific Osteoporosis	2012 年 12 月	Kuala Lumpur, Malaysia
202		青野武志, 柳原大, 持永 新, 越川一紀, 青木和浩, 花川 隆, 佐久間和彦.	陸上競技走高跳競技者における指導者からの言葉がけを受けた際の脳活動について	日本陸上競技学会第 11 回大会	2012 年 12 月	千葉

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

203		中村恭子, 宮本乙女.	課題解決型ダンス学習によるダンスイメージの変容-大学生と中学生の事例比較-	日本教育大学協会全国ホ保健体育・保健研究部門第 32 回全国創作舞踊研究発表会	2012 年 12 月	群馬
204	***	川村佑貴, 川田裕次郎, 中島宣行, 広沢正孝	保育者の言葉がけが幼児の運動に対するモチベーションに及ぼす影響.	日本スポーツ心理学会第 39 回大会	2012 年 11 月	石川
205		Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Sugiura T, Powers SK, Kawai S, <u>Naito H.</u>	Effects of heat stress on diaphragmatic atrophy induced by 12 h mechanical ventilation in rat.	2012 APS Intersociety Meeting: The Integrative Biology of Exercise-VI	2012 年 10 月	Colorado, USA
206		Sakamoto A, <u>Naito H.</u>	Effects of hyperventilation on repeated isokinetic torque production and EMG of lower limbs.	be active 2012 Australian Conference of Science and Medicine in Sport.	2012 年 10 月	Sydney, Australia
207	***	Someya Y, Kawai S, Saga N, Kohmura Y, Aoki K, Marui E, Daida H.	<u>A low level of cardiorespiratory fitness during college-age is a precursor of adult-onset diabetes mellitus.</u>	48th Annual Meeting of EASD (European Association for the Study of Diabetes)	2012 年 10 月	Berlin, Germany.
208	***	安光達雄, <u>野川春夫.</u>	<u>業間中休みに行う短時間コーディネーションプログラムの影響～低学年児童の敏捷性と保健室利用状況～.</u>	第 14 回日本生涯スポーツ学会	2012 年 10 月	広島
209	***	岡田梓, <u>野川春夫</u> , 田中暢子, 佐々木朋子, 工藤康宏	東南アジア諸国の障害者スポーツ推進政策における現状と課題～タイ王国に着目して～.	第 14 回日本生涯スポーツ学会	2012 年 10 月	広島
210		中村恭子	中学校ダンス必修化に関する調査報告書.	ダンス授業研究会	2012 年 10 月	東京
211	***	渡邊貴裕, 松山毅, 下村義夫, 本田由佳.	<u>知的障害者における健康課題-身体組成に着目して.</u>	第 71 回日本公衆衛生学会	2012 年 10 月	山口
212	***	トウホウウ, <u>内藤久士</u> , <u>形本静夫.</u>	<u>中国における肥満児の身体活動量に関する研究.</u>	第 67 回日本体力医学会大会	2012 年 9 月	岐阜

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

213		伊藤憲治, 須藤路子, 望月明人, 桐野衛二.	社会性と空間・言語・運動能力との 連関解析.	電子情報 通信学会	2012年9 月	富山
214		柿木亮, 内藤久土, 形本静夫, 小林裕幸, 深尾宏祐, 都築孝允, 岡田隆夫.	短時間のランニングおよび自転車 運動が血中 Hsp72 濃度に及ぼす影 響.	第 67 回日本体力医学 会大会	2012年9 月	岐阜
215	***	宮原祐徹, 内藤久土, 形本静夫.	静的ストレッチングおよびバリス ティックストレッチングが筋力発揮に 及ぼす影響.	第 67 回日本体力医学 会大会	2012年9 月	岐阜
216		佐賀典生, 内藤久土, 形本静夫, 蛭間栄介, 松下隆.	温浴による処置が伸張性運動後の 筋損傷・筋痛に及ぼす影響.	第 67 回日本体力医学 会大会	2012年9 月	岐阜
217	***	小山 桂史, 内藤久土.	Unstable shoes の着用が種々速度 の歩行における酸素摂取量に及ぼ す影響.	第 26 回 日本靴医学会 学術集会	2012年9 月	東京
218		杉浦崇夫, 吉原利典, 後藤勝正, 内藤久土, 吉岡利忠.	筋損傷後の再生過程における温熱 刺激がミオスタチン, フォリスタチン 発現に及ぼす影響.	第 67 回日本体力医学 会大会	2012年9 月	岐阜
219		石原美彦, 内藤久土, 形本静夫, 吉村雅文.	ユース年代の試合中におけるサッカ ー審判員の運動強度.	第 67 回日本体力医学 会大会	2012年9 月	岐阜
220	***	川田裕次郎, 飯嶋正博, 井筒紫乃, 山田 快, 上村 明, 広沢正孝.	幼児における運動有能感測定の試 み.	日本幼児体育学会第 8 回大会	2012年9 月	千葉
221		中村智洋, 内藤久土, 形本静夫.	大学生スプリンターにおける ACTN3 遺伝子型と無酸素パワーとの関連 性.	第 67 回日本体力医学 会大会	2012年9 月	岐阜
222		仲間孝大, 形本静夫, 内藤久土.	最大乳酸定常状態の簡易的な推定 法の検討.	第 67 回日本体力医学 会大会	2012年9 月	岐阜
223	***	張碩文, 内藤久土.	台湾大学生における体力と睡眠習 慣の関連性.	第 67 回日本体力医学 会大会	2012年9 月	岐阜
224	***	渡邊貴裕	学習困難・軽度知的障害児があら ゆる教育の場で増えている—学習支 援の展開を考える—健康スポーツ教 育の実態把握と支援方法.	日本特殊教育学会第 50 回大会	2012年9 月	茨城
225	***	渡邊貴裕, 本田由佳, 橋本創一, 菅野敦	知的障害者の身体組成に関する研 究.	日本特殊教育学会第 50 回大会	2012年9 月	茨城

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

226	***	都築孝允, 小林裕幸, 内藤久土, 形本静夫.	運動トレーニング時の体温上昇が2型糖尿病ラットの耐糖能に及ぼす影響.	第 67 回日本体力医学会大会	2012 年 9 月	岐阜
227		尾崎隼朗, 内藤久土, 小林裕幸, 柿木亮, 関根紀子, 吉原利典, 形本静夫.	歩行運動中の血流制限が mTOR 及び MAPK シグナル伝達経路に及ぼす影響.	第 67 回日本体力医学会大会	2012 年 9 月	岐阜
228	***	望月明人, 須藤路子, 伊藤憲治, 桐野衛二.	身体運動と言語行動の脳内活性への効果—コーディネーション運動の観点から—.	第 67 回日本体力医学会大会	2012 年 9 月	岐阜
229	***	本田由佳, 鈴木光幸, 成高中之, 齋藤暢知, 箕輪圭, 東海林宏道, 大塚宜一, 渡邊貴裕, 内藤久土, 清水俊明.	身体組成からみた栄養状態とダイエットの関連—小学校高学年での検討—.	日本思春期学会総会	2012 年 9 月	群馬
230	***	高嶺由梨, 内藤久土, 形本静夫.	自発走トレーニングがラットの血中骨形成マーカーおよび血中レプチンに及ぼす影響.	第 67 回日本体力医学会大会	2012 年 9 月	岐阜
231		Shino Izutsu, Mitsuhiro Yonetani & Yujiro Kawata	Relationship between floating-toes and motor ability among Japanese young children	8th Asian Preschool Physical Education Conference and PE Workshop for Kindergarten Teachers.	2012 年 8 月	Beijing, China
232	***	Kawata Y, Iijima M, Izutsu S, Yamada K, Kamimura A, Hirosawa M.	The relative age effect on physical fitness, motor ability, physical competence and evaluation from kindergarten teachers among Japanese young children.	8th Asian Preschool Physical Education Conference and PE Workshop for Kindergarten Teachers.	2012 年 8 月	Beijing, China
233	***	川田裕次郎, 山田 快, 上村 明, 那須野歩, 飯嶋正博, 中島宣行, 広沢正孝.	幼児における体格, 運動能力, 保育者からの評価と運動有能感の関連.	日本体育学会第 63 回大会	2012 年 8 月	神奈川
234		中村恭子	中学校ダンス必修化に伴うダンス授業実施状況の推移と問題点.	日本体育学会第 63 回大会	2012 年 8 月	神奈川
235	***	渡辺圭佑, 船橋祐美子, 柳谷登志雄.	靴の硬度が跳躍運動におけるステイフネスに及ぼす影響.	日本体育学会第 63 回大会	2012 年 8 月	神奈川
236	***	渡邊貴裕, 橋本創一, 菅野敦, 宮崎義成, 尾高邦生.	特別支援学校の体育及び体育的活動に関する調査研究	日本発達障害学会第 47 回大会	2012 年 8 月	神奈川

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

237	***	渡邊貴裕, 本田由佳, 橋本創一, 菅野敦.	知的障害者の身体組成と健康課題	日本発達障害学会第47回大会	2012年8月	神奈川
238		渡邊貴裕, 本田由佳, 橋本創一, 菅野敦	知的障害者の身体組成に関する研究	日本特殊教育学会第50回大会	2012年8月	茨城
239		渡邊貴裕	学習困難・軽度知的障害児があらゆる教育の場で増えている-学習支援の展開を考える-健康スポーツ教育の実態把握と支援方法	日本特殊教育学会第50回大会	2012年8月	茨城
240	***	北村 薫	子どもの運動プログラムの社会的支援:保護者のニーズは何か~4000人のアンケート調査から~	日本スポーツ産業学会セミナー	2012年8月	東京
241		野川春夫, 佐々木朋子, 田中暢子, 佐藤由夫.	スポーツ振興(健常者・障害者)の一元化推進政策への再考	第63回日本体育学会	2012年8月	神奈川
242		芳地泰幸, 水野基樹, 山田泰行, 中山貴太, 藤井啓嗣, 北村薫	大学生スポーツチームにおけるチームビルディングの導入とその効果の検討II 構造化を目指した定量的調査の視点から	第63回日本体育学会	2012年8月	神奈川
243		柳谷登志雄, 上田勝也, 渡辺圭佑, 小山桂史.	シューズの相違が競歩のキネマティクスに及ぼす影響.	日本体育学会第63回大会	2012年8月	神奈川
244		Nakagata T, Murade S, Fukao K, Katamoto S, Naito H.	Work intensity and energy expenditure of enduro-cycling race in recreational cyclists.	17th Annual Congress of the European College of Sport Science	2012年7月	Bruge, Belgium.
245		杉浦崇夫, 芝口翼, 吉原利典, 後藤勝正, 内藤久土, 吉岡利忠.	代償性筋肥大によるミオスタチン, フォレストアチン, 筋衛星細胞の変化.	第20回日本運動生理学会大会	2012年7月	茨城
246	***	朝倉隆司, 涌井佐和子, 青柳直子, 竹鼻ゆかり.	小中学生のストレス反応に関する生物-心理-社会的要因のパスモデル.	第21回日本健康教育学会学術大会	2012年7月	東京
247	***	本田由佳, 鈴木光幸, 成高中之, 齋藤暢知, 箕輪圭, 東海林宏道, 大塚宜一, 渡邊貴裕, 内藤久土, 清水俊明.	身体組成からみた栄養状態と生活習慣の関連-小学生高学年での検討-	日本小児栄養消化器肝臓学会	2012年7月	大阪

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

248	***	Deng Pengyu, Naito H., Sakamoto A.	<u>Physical Activity of Chinese Children.</u>	Conference for the Third China`s Nation Physical Fitness Surveillance (CNPFS) & International Seminar of Physical Fitness Research	2012年6月	Macao, China
249		Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Ogura Y, Sugiura T, Naito H.	Expression of α -actinin-3 protein of hybrid I/IIa fibers in rat skeletal muscle.	15th International Biochemistry of Exercise Conference	2012年6月	Stockholm, Sweden
250		Kakigi R, Ozaki H, Miura S, Kobayashi H, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Naito H.	Whey protein ingestion after exercise decreases LC3-II expression in human muscle.	15th International Biochemistry of Exercise Conference	2012年6月	Stockholm, Sweden
251	***	Tsuzuki T, Kobayashi H, Yoshihara T, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Katamoto S.	<u>Effects of training without elevation of body temperature on lipid profiles in OLETF rat.</u>	15th International Biochemistry of Exercise Conference	2012年6月	Stockholm, Sweden
252	***	川田裕次郎, 矢島雪乃, 山田快, 上村明, 飯嶋正博, 水野基樹, 広沢正孝.	<u>相対的年齢が幼児の体格, 運動能力, 運動有能感及び保育者からの評価に及ぼす影響.</u>	第47回人類働態学会全国大会	2012年6月	埼玉
253		Kakigi R, Ozaki H, Miura S, Kobayashi H, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Naito H.	Effects of Whey Peptide Ingestion after Resistance Exercise on mTOR Signaling in Human Skeletal Muscle.	The American College of Sports Medicine 59th Annual Meeting	2012年5月	San Francisco, USA
254		Ozaki H, Naito H, Kobayashi H, Kakigi R, Sekine-Ichinoseki N, Yoshihara T, Kitada T, Nakajima T, Abe T, Katamoto S.	The effects of walking and blood flow restriction on mTOR signaling in young men.	The American College of Sports Medicine 59th Annual Meeting	2012年5月	San Francisco, USA

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

255	***	Tsuzuki T, Kobayashi H, Yoshihara T, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, <u>Naito H</u> , Katamoto S.	<u>Exercise training improves glucose tolerance in type 2 diabetic rats regardless elevation of body temperature.</u>	The American College of Sports Medicine 59th Annual Meeting	2012年5 月	San Francisco , USA
256	***	Wakamatsu K, Sakuraba K, Suzuki Y, Tsuchiya Y, Ochi E.	<u>Association Between The Stress Fracture And Bone Metabolism/quality Markers In Lacrosse Players.</u>	The American College of Sports Medicine 59th Annual Meeting	2012年5 月	San Francisco , USA
257		Yoshihara T, Sugiura T, <u>Naito H</u> .	Signaling Responses In Unloaded Rat Soleus Muscle To Combination Of Heat Stress And Intermittent Reloading.	The American College of Sports Medicine 59th Annual Meeting	2012年5 月	San Francisco , USA
258		伊藤憲治, 須藤 路子, 望月明人, 桐野衛二.	社会性と運動能力の脳内空間処理 に基づく解析	第 27 回日本生体磁気 学会大会	2012年5 月	東京
259		小林令子, 田中 純夫.	女子大学生における公的自意識 と 被服行動および瘦身志向との関 連.	日本ヘルスプロ モーシ ョン学会 第 10 回学術 大会・総会	2012年5 月	東京
260		西田敬志, 佐藤 健太郎, 田中純 夫.	大学生における主観的健康感とライ フイベントとの関連.	日本ヘルスプロ モーシ ョン学会 第 10 回学術 大会・総会	2012年5 月	東京
261		Yoshihara T, <u>Naito H</u> , Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Sugiura T, Katamoto S.	Effects of Combination of Heat Stress and Intermittent Weight-bearing on Disuse Muscle Atrophy and Intracellular Signal in Unloaded Rat Soleus Muscle.	The 20th International Congress on Sports Sciences for Students	2012年4 月	Budapest, Hungary
262		西田敬志, 田中 純夫, 北村 薫	保健体育系大学生による児童生徒 の適応支援活動の有効性とシステ ム整備.	日本スポーツ社会学会 第 21 回大会	2012年3 月	熊本
263	***	染谷由希, 藤田 淑香, 河合祥雄, 丸井英二, 代田 浩之.	<u>医学, 体育大学卒業生の中高年期 における死亡率, 疾病と生活習慣.</u>	第 76 回日本循環器学 会総会学術集会	2012年3 月	福岡
264		<u>Kawata Y</u> , Kirino E, Mizuno M, <u>Hirosawa M</u> .	Mind reading through the eyes: an fMRI study.	18th World Congress on Ergonomics	2012年2 月	Recife, Brazil
265	***	若松健太, 桜庭 景植, 丸山麻子, 鹿倉二郎, 鈴木 良雄, 丸山伸也, 越智英輔.	<u>大学女子スポーツ選手における骨 代謝マーカーおよび骨質関連マ ーカーに関する研究.</u>	日本臨床スポーツ医学 会	2011年11 月	青森

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

266		中村恭子, 広沢正孝, 細見修, 山倉文幸, 鈴木利人, 輪島留美子, 木内瑞絵, 田中那奈	精神科リハビリテーションにおけるスポーツ活動の有効性の検討—生理学的ストレス指標の活用の試み—	第 54 回日本病院・地域精神医学会総会	2011 年 11 月	沖縄
267	***	朝倉隆司, 涌井佐和子, 青柳直子, 竹鼻ゆかり.	小・中学生における生理学的ストレス指標と学校関連ストレス、抑うつとの関連.	日本学校保健学会第 58 回大会	2011 年 11 月	愛知
268	***	齋藤小百合, 柳谷登志雄.	子ども用運動靴に”Ankle Support Hold Racing System”を用いて足首をホールドすることが疾走タイムを向上させるのか.	第 24 回日本トレーニング科学学会大会	2011 年 11 月	東京
269		橋本創一 佐藤晋治 上村恵津子 熊丸高雄 渡邊貴裕	地域の実情にあった発達障害者支援・学校支援の事例・実践研究～教育フィールドにおける支援方法・アセスメント法・連携研究のあり方～	日本 LD 学会 第 20 回大会	2011 年 10 月	東京
270		柿木 亮, 尾崎隼朗, 小林裕幸, 三浦 晋, 関根紀子, 吉原利典, 内藤久土.	レジスタンス運動後のホエイペプチド摂取がヒト骨格筋 mTOR シグナル伝達に及ぼす影響.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
271		関根紀子, 吉原利典, 柿木 亮, 小倉裕司, 杉浦崇夫, 内藤久土.	ラット横隔膜における a アクチニン 3 タンパク質の筋線維特異的発現.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
272		吉原利典, 内藤久土, 柿木 亮, 関根紀子, 杉浦崇夫, 形本静夫.	温熱負荷がラット骨格筋の Akt/mTOR シグナル伝達に与える影響.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
273		今関豊一	体育科学習指導要領における学習内容の概念的成立の検討—今次改訂の学習指導要領を中心に—	日本体育学会第 62 回大会	2011 年 9 月	鹿児島
274		佐賀典生, 内藤久土, 河合祥雄, 形本静夫.	遅発性筋痛時の温熱処置が筋損傷・筋痛に及ぼす影響.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
275		佐藤幸治, 家光泰行, 松谷健司, 浜岡隆文, 栗原俊之, 内藤久土, 藤田 聡.	一過性レジスタンス運動時の筋タンパク質合成関連シグナル経路調節—加齢の影響.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
276	***	小山桂史, 内藤久土, 柳谷登志雄.	靴の着用が歩行中の下肢の動作および骨格筋の力発揮に及ぼす影響.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

277		小倉裕司, 内藤久土, 柿木 亮, 関根紀子, 黒坂光寿, 明間立雄.	加齢および持久性トレーニングがラット足底筋の a アクチニンアイソフォームに及ぼす影響.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
278		杉浦崇夫, 吉原利典, 芝口 翼, 後藤勝正, 西郷真奈 美, 内藤久土, 大森大二郎, 吉岡利忠.	筋核アポトーシスからみた熱ストレス負荷, アスタキサンチン投与ならびに それらの組み合わせによる筋萎縮抑制効果について.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
279		石原美彦, 内藤久土, 形本静夫.	年齢カテゴリー別にみたサッカー審判員の運動強度.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
280		川田裕次郎, 那須野歩, 沖 和砂, 田中純夫, 中島宣 行, 広沢正孝.	体育系学生における自閉症スペクトラム指数と日常・競技ストレスとの関連.	第 62 回日本体育学会大会	2011 年 9 月	鹿児島
281	***	染谷由希, 藤田淑香, 高田和子, 丸井英二, 代田浩之, 河合祥雄.	中高年期における体育学部同窓生の生活習慣と糖尿病.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
282		中村恭子	教員養成課程におけるダンスの学習内容・目標評価と種目採択意欲の関係.	日本体育学会第 62 回大会	2011 年 9 月	鹿児島
283	***	渡辺圭佑, 柳谷登志雄, 朴 商供, 李 美淑, 内藤久土.	子どもにおける下肢スティフネスとアクチニン 3 遺伝子の関連性.	第 62 回日本体育学会大会	2011 年 9 月	鹿児島
284		都築孝允, 小林裕幸, 内藤久土, 吉原利典, 柿木亮, 関根紀子, 形本静夫.	温熱処置が 2 型糖尿病ラットの骨格筋における AMPK 活性化に及ぼす影響.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
285		尾崎隼朗, 内藤久土, 中瀧 崇, 北田友治, 窪田敦之, 形本静夫.	コンバインドトレーニングにおける持久性運動の強度の違いがトレーニング効果に及ぼす影響.	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
286		野川春夫, 佐々木朋子, 舟木泰世, 佐藤由夫.	スポーツ振興(健常者・障害者)の一元化推進策に関する国際比較研究.	第 62 回日本体育学会大会	2011 年 9 月	鹿児島
287		芳地泰幸, 中山貴太, 水野基樹, 北村薫	チームビルディングの実践とチーム活性化に関する研究: 大学生野球部を事例に	第 62 回日本体育学会大会	2011 年 9 月	鹿児島
288	***	柳谷登志雄, 小山桂史, 渡辺圭佑, 内藤久土.	Unstable shoes を着用して歩行する際の下腿三頭筋の動態.	第 62 回日本体育学会大会	2011 年 9 月	鹿児島

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

289		柳谷登志雄, 渡辺圭佑, 内藤久土, 朴 商供, 奇善京, 李 美淑.	ACTN3 遺伝子型は子どもの疾走能力を決定するか?	第 66 回日本体力医学会大会	2011 年 9 月	山口
290		渡邊貴裕 橋本創一 菅野敦 宮崎義成 尾高邦生	特別支援学校の体力・運動能力検査に関する調査研究	日本特殊教育学会第 49 回大会	2011 年 9 月	弘前
291		橋本創一 菅野敦 恵羅修吉 工藤傑史 渡邊貴裕	軽度知的障害児があらゆる教育の場で増えている～教育支援や教育課程を考える～	日本特殊教育学会第 49 回大会	2011 年 9 月	弘前
292		佐賀典生, 形本静夫, 関根紀子, 内藤久土, 河合祥雄.	サイクリング愛好者の ACTN3 遺伝子型に関する研究.	第 19 回日本運動生理学学会大会	2011 年 8 月	徳島
293		尾崎隼朗, 内藤久土, 形本静夫.	レジスタンストレーニングにおける運動強度の違いが頸動脈コンプライアンスに与える影響.	第 19 回日本運動生理学学会大会	2011 年 8 月	徳島
294	***	渡邊貴裕 橋本創一 菅野敦 宮崎義成 尾高邦生	特別支援学校の体育及び体育的活動に関する調査研究	日本発達障害学会第 46 回大会	2011 年 8 月	鳥取
295		Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Ogura Y, Sugiura T, Powers SK, Naito H.	Effects of 12-h mechanical ventilation on fibre-specific expression of alpha-actinin-3 protein in rat diaphragm.	The 16th Annual Congress of the European College of Sport Science	2011 年 7 月	Liverpool, UK
296		Kakigi R, Naito H, Murade S, Yoshihara T, Nakagata T, Ozaki H, Katamoto S.	Endurance cycling exercise increases serum heat shock protein 72 in humans.	The 16th Annual Congress of the European College of Sport Science	2011 年 7 月	Liverpool, UK
297		Nakagata T, Murade S, Ishihara Y, Katamoto S, Naito H.	Aerobic work capacity in Japanese middle-aged recreational cyclists.	The 16th Annual Congress of the European College of Sport Science	2011 年 7 月	Liverpool, UK
298		Ozaki H, Murade S, Kakigi R, Nakagata T, Yoshihara T, Katamoto S, Naito H.	The effects of the difference of cycling time on energy dynamics and biochemical markers of heart damage for japanese recreational cyclists.	The 16th Annual Congress of the European College of Sport Science	2011 年 7 月	Liverpool, UK

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

299		Yoshihara T, <u>Naito H</u> , Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Sugiura T, <u>Katamoto S.</u>	Changes of autophagic regulations in response to voluntary exercise training in rat cardiac muscle	The 16th Annual Congress of the European College of Sport Science	2011年7月	Liverpool, UK
300		依田充代, <u>北村薫</u> , 澤野 宏.	子どもの薬とサプリメントの研究.	日本スポーツ産業学会第20回大会	2011年7月	東京
301		菅又雄太郎, 芳地泰幸, 水野基樹	指導者のリーダーシップスタイルと選手の競技意欲の関連—ジュニアユースサッカークラブを対象にして—	第46回人類働態学会全国大会	2011年6月	広島
302	***	<u>川田裕次郎</u> 、 <u>広沢正孝</u> 、蛭田秀樹、田中純夫、水野基樹	大学生におけるマインド・リーディングと対人ストレスイベントとの関連	第46回人類働態学会全国大会	2011年6月	広島
303		Ichinoseki-Sekine N, <u>Naito H</u> , Yoshihara T, Tsuchihara K, Esumi H.	Effects of Snark-deficiency on whole-body metabolism with high fat diet.	The American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting	2011年5月	Denver, USA
304		Kakigi R, <u>Naito H</u> , Ogura Y, Kobayashi H, Saga N, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, <u>Katamoto S.</u>	Effects of resistance exercise with heat stress on mTOR signaling in human skeletal muscle.	The American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting	2011年5月	Denver, USA
305		Ogura Y, <u>Naito H</u> , Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Akema T.	Adaptation of alpha-actinin isoforms to endurance exercise training in adult and old rat plantaris muscle.	The American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting	2011年5月	Denver, USA
306		Ozaki H, <u>Naito H</u> , Nakagata T, Kitada T, <u>Katamoto S.</u>	Cardiovascular responses to combined elastic tube and walking exercises.	The American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting	2011年5月	Denver, USA
307		Sato K, Iemitsu M, Matsutani K, Hamaoka T, Kurihara T, <u>Naito H</u> , Fujita S.	Regulation of hypertrophic signaling pathways to a low-volume resistance exercise in older individuals.	The American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting	2011年5月	Denver, USA
308		Sawada SS, Lee IM, <u>Naito H</u> , Okamoto T, Tsukamoto K, Muto T, Higaki H, Tanaka H, Blair SN.	Long-term trends in cardiorespiratory fitness and the incidence of hypertension.	The American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting	2011年5月	Denver, USA

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

309	Tsuzuki T, Kobayashi H, Naito H, Katamoto S.	The effects of heat treatment on glucose tolerance in type 2 diabetic rats.	The American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting	2011年5月	Denver, USA
310	Yoshihara T, Naito H, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Sugiura T, Katamoto S.	Effects of heat stress on Akt/mTOR signaling in rat skeletal muscle.	The American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting	2011年5月	Denver, USA

<研究成果の公開状況>(上記以外)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

1. 学術セミナー、研究成果報告会の開催

◎学術研究集会

開催日	平成 23 年 7 月 28 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス 2 号館 2 階 21 番教室
講 師	関子 浩二 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授、陸上競技部跳躍コーチ)
演題名	「プライオメトリックトレーニングの理論と実践」

開催日	平成 24 年 10 月 29 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス 2 号館 2 階 21 番教室
講師	澤江 幸則 (筑波大学体育系准教授)
演題名	「アダプテッド・スポーツ科学に関する話題<発達障害のある子供に対する運動発達支援>」

開催日	平成 25 年 11 月 16 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス 1 号館 1 階 運動生理学実験室
講師	川西 範明 (北海道大学保健科学研究院 特任助教)
演題名	「免疫細胞の動態に着目した運動による慢性炎症の改善効果」

開催日	平成 26 年 3 月 16 日
場 所	順天堂大学本郷キャンパス 10 号館 2 階 203 カンファレンスルーム
講師	鈴木 宏哉 (東北学院大学教養学部准教授)
演題名	「Asia-Fit-Test について」

開催日	平成 27 年 2 月 20 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス 1 号館 5 階 バイオメカニクス実験室
講師	宮本 直和 (鹿屋体育大学スポーツ生命科学系准教授)
演題名	「骨格筋の力発揮能力～活動後増強と筋疲労～」

開催日	平成 27 年 4 月 1 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス スポーツ健康医科学研究所 1 階 スポーツ科学系実験室
講師	岡田 純一
演題名	ストレングストレーニングプログラムとその効果

開催日	平成 27 年 2 月 20 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス 1 号館 5 階 バイオメカニクス実験室
講師	宮本 直和 (鹿屋体育大学スポーツ生命科学系准教授)
演題名	「骨格筋の力発揮能力～活動後増強と筋疲労～」

開催日	平成 27 年 4 月 1 日
-----	-----------------

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

場所	順天堂大学さくらキャンパス スポーツ健康医科学研究所 1 階 スポーツ科学系実験室
講師	岡田 純一
演題名	ストレングストレーニングプログラムとその効果

開催日	平成 27 年 7 月 24 日
場所	順天堂大学さくらキャンパススポーツ健康医科学研究所 4 階
講師	Thmas Yvert (スポーツ健康科学部 招聘研究員)
演題名	Physical capacity related genetic polymorphisms in children with Cystic Fbrosis

◎海外研究者招待セミナー

開催日	平成 24 年 3 月 15 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス 2 号館 2 階 12 番教室
講 師	Erika Koltai, Ph.D. Research Assistant, Semmelweis University, Hungary
演題名	The Hungarian education system focusing on the Semmelweis University

開催日	平成 25 年 1 月 8 日
場 所	順天堂大学スポーツ健康医科学研究所
講 師	Stanley Sai-chuen HUI S, Ph.D. Professor, The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong
演題名	The Asia-Fit Study: Cross-cultural Comparison on Physical Fitness, Physical Activity and Obesity of Youth Among Major Cities in Southeast Asia.

開催日	平成 25 年 2 月 4 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス 1 号館 1 階運動生理学研究室
講 師	Haydar A Demirel MD, Ph.D. Professor and Dean of School of Sports Sciences, Hacettepe University, Turkey
演題名	トルコにおけるスポーツ医科学研究 ～子どもの健康づくりに関する共同研究の可能性～

開催日	平成 26 年 1 月 16 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス啓友会館 2F
講 師	Kazunori Nosaka Professor of School of Exercise and Health Science, Edith Cowan University
演題名	10 years at Edith Cowan University

開催日	平成 26 年 12 月 3 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパススポーツ健康医科学研究所 4 階
講 師	Kazunori Nosaka Professor of School of Exercise and Health Science,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

	Edith Cowan University
演題名	伸張性運動の利点と欠点
開催日	平成 27 年 7 月 30 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパススポーツ健康医科学研究所 4 階
講 師	Hirohumi Tanaka Professor and Director of the Cardiovascular Aging Research Laboratory at the University of Texas at Austin
演題名	身体活動と血管機能
開催日	平成 28 年 1 月 15 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパススポーツ健康医科学研究所 4 階
講 師	Erika Koltai University of Physical Education, Hungary
演題名	The effect of regular exercise on the molecular mechanisms of aging:role of sirtuins
◎シンポジウム	
開催日	平成 27 年 2 月 28 日
場 所	ウイシュトンホテル・ユウカリ 5 階
プログラム	<p>第 11 回順天堂大学スポーツ健康科学部国際シンポジウム (スポーツ健康医科学研究所共催)</p> <p>① 基 調 講 演:「障害者へのスポーツの拡大とその意義」 演 者:渡辺 浩美 (スペシャルオリンピックス 2014 福岡大会実行委員会事務局長)</p> <p>② 特 別 講 演:「パラリンピアンズの活躍と必要な支援」 演 者:安岡 チョーク (アテネ 2014 パラリンピックリック上競技 800m 金メダリスト)</p> <p>③ シンポジウム:「アダプテッド・スポーツの実践と今後への期待」 シンポジスト:知的障害の場合 久保田 洋一 (千葉県知的障害者サッカー連盟副会長) 身体障害の場合 古賀 稔啓 (一般社団法人日本ユニバーサルボッチャ連盟理事長) 精神障害の場合 高畑 隆 (NPO 日本ソーシャルフットボール協会事務局長) 指定討論者:佐藤 敬広 (東北文化学園大学 准教授)</p>
開催日	平成 27 年 11 月 21 日
場 所	順天堂大学さくらキャンパス 11 番教室

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

プログラム	<p>International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles 子どもの体力と運動・生活習慣に関する国際シンポジウム Session1 戦略的研究基盤形成支援事業 「子どもの健康づくりのためのスポーツ医科学拠点の形成」 成果発表</p> <p>Session2 Reports from “The Asia-Fit Study” Chairperson: Yoshiro Hatano Symposiast: Stanley Sai-Chuen Hui, Ed.D. Jong Kook Song, Ph.D. Yiing Mei Liou, RN, Ph.D. Dajiang Lu, Ph.D. Bee Koon Poh, Ph.D. Kallaya Kijboonchoo, Ph.D. Govidasamy Balasekaran, Ph.D.</p> <p>Session3 Reports from “ICHPER・SD Research Project” Chairperson: Koya Suzuki Symposias: Yoshiro Hatano, Ph.D. Abedalbasit Abedalhafiz, Ph.D. Grace O. Otinwa, Ph.D.</p>
-------	--

◎研究成果発表会

開催日	平成 27 年 3 月 8 日
場 所	順天堂大学本郷キャンパス D 棟 8 階カンファレンスルーム
発表 タイトル	<p>第 56 回順天堂スポーツ医学研究会 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「子どもの健康づくりのためのスポーツ医科学拠点の形成」における生活習慣・疫学グループ成果発表</p> <p>座長：塩野 潔、内藤 久士</p> <p>1. 生活習慣・疫学グループの概要について 代 表 者 横山 和仁 (順天堂大学医学部衛生学教室) 代理演者 松川 岳久 (順天堂大学医学部衛生学教室)</p> <p>2. 幼児への運動プログラム導入の効果評価の試み 成田 奈緒子 (文教大学教育学部特別支援教育専修)</p> <p>3. 子どもと保護者の運動習慣の関連 門屋 悠香 (順天堂大学スポーツ健康科学部)</p> <p>4. 大学生の運動習慣に影響を与える要因 門屋 悠香 (順天堂大学スポーツ健康科学部)</p> <p>5. 妊婦の運動と分娩アウトカム 西岡 笑子 (神戸大学医学部保健学科)</p>

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

	<p>6. 小学生を対象とした栄養と体組成・骨密度の調査と健康教育ツールの開発 本田 由佳 (順天堂大学大学院小児科・思春期科学講座)</p> <p>7. 子ども～青年期の運動経験が労働者の現在の運動習慣形成に及ぼす影響 伊藤 弘明 (順天堂大学医学部衛生学講座)</p>
--	--

◎スポーツロジセンター・スポーツ健康医科学研究所合同 研究成果報告会

開催日	平成 23 年 7 月 1 日
場 所	順天堂大学本郷キャンパス 10 号館 1 階 105 カンファレンスルーム
開催日	平成 24 年 5 月 25 日
場 所	順天堂大学本郷キャンパス 6 号館 2 階会議室
開催日	平成 25 年 5 月 2 日
場 所	順天堂大学本郷キャンパス 6 号館 2 階会議室
開催日	平成 26 年 5 月 2 日
場 所	順天堂大学本郷キャンパスセンチュリータワー13 階南
開催日	平成 27 年 9 月 12 日
場 所	順天堂大学本郷キャンパス 有山登記念館講堂

2. インターネットでの公開状況

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科ホームページ内にて公開
<http://www.juntendo.ac.jp/hss/labo/index.html>

<これから実施する予定のもの>

- 平成 28 年 6 月 29 日(水)
 スポーツロジセンター・スポーツ健康医科学研究所合同研究成果報告会

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

14 その他の研究成果等

(1)アキレス株式会社と子どもの歩行・走行動作と足圧パターンの計測を通して、通学にも体育授業やスポーツ活動にも対応できる子ども用運動靴「瞬足シリーズ」、足部のストレス軽減と正しい歩き方を促すことを目指した子ども靴「SYUNSOKU SO・KU・I・KU(瞬足そくいく)シリーズ」を共同開発した。****1

(2) 教育現場における実践指導およびセミナー等 ****2

講師	タイトル	会の名称	発表年月	場所
鈴木宏哉	運動・スポーツと運動あそびの実態と子どもを取り巻く環境	子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2015 刊行記念セミナー	2016 年 3 月	東京
鈴木宏哉	青少年期の“ちょいスポ”があなたの生活を豊かにする	女川小・中学校教育講演	2016 年 1 月	宮城
櫻庭景植	スポーツ傷害:代表的なスポーツのケガ、オリンピックと箱根駅伝など	文京ジュニア・スポーツ・アカデミー	2015 年 12 月	東京
鈴木宏哉	児童・生徒の体力向上を目指した教育課程の在り方	文京区教育委員会平成 27 年度教務主任研修会(第 4 回)	2015 年 11 月	東京
鈴木宏哉	幼児の発育発達と運動の習慣化	宮城教育大学附属幼稚園公開研究会	2015 年 10 月	宮城
鈴木宏哉	ながいアクティブキッズプロジェクト運動遊び指導	山形県長井市	2015 年 10 月	山形
内藤久士	活動量計操作説明	こども健康大学 習志野市	2015 年 8 月	千葉
川田裕次郎	運動がうまくなるためのヒミツ	こども健康大学 習志野市	2015 年 8 月	千葉
中丸信吾	ゲームに挑戦! フライングディスク	こども健康大学 習志野市	2015 年 8 月	千葉
鈴木宏哉	運動の習慣化と子どもの発達発育	文京区教育委員会平成 27 年度教育課題研修会(第 3 回)	2015 年 7 月	東京
町田萌	スポーツにおける親の関わり方	文京区ジュニア・スポーツ・アカデミー	2015 年 2 月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

青木和浩	発育・発達・老化とスポーツプログラム	葛飾区スポーツ指導員講習会	2015年2月	東京
青木和浩	子どもから大人まで手軽にできる体力トレーニング	千葉県スポーツ指導者研修会	2015年1月	千葉
柳谷登志雄	瞬足陸上教室	熊本県熊本市白坪小学校	2014年11月	熊本
柳谷登志雄	陸上教室(俊足プログラム)	順天堂大学さくらキャンパス	2014年11月	千葉
広沢正孝	精神障害者のこころの理解ー自閉症スペクトラム障害を中心に	富山県精神医科学講演会(特別講演)	2014年11月	富山
広沢正孝	統合失調症の寛解過程とリハビリテーション	岡山精神科デイクア研究会学術講演会(特別講演)	2014年11月	岡山
柳谷登志雄	子どものカラダと運動の話	花咲幼稚園講演会	2014年10月	埼玉
鈴木良雄	スポーツと栄養 ジュニア選手のための食育学	文京区ジュニア・スポーツ・アカデミー	2014年10月	東京
広沢正孝	自閉症スペクトラム障害と統合失調症ー精神病理学の観点から	仙台精神科学術講演会(特別講演)	2014年10月	仙台
柳谷登志雄	ジュニア期のスポーツ	千葉県社会体育公認指導員養成講習会「トレーニング論」	2014年9月	千葉
広沢正孝	自閉症スペクトラム障害と統合失調症の理解ー彼らの「こころの構造」と精神病理	日本臨床心理研修センター平成26年度夏期講習会	2014年8月	東京
青木和浩	子どもの体力・運動技能を高める効果的な指導法	平成26年度白井市教育センター室夏期研修講座	2014年8月	千葉
青木和浩	子どもの体力向上について	平成26年度文京区教育課程研修会	2014年7月	東京
越川一紀 青木和浩	文京ジュニア・スポーツ・アカデミー陸上教室	文京区	2014年～ 2015年	東京
柳谷登志雄	小学生の長距離走技術の観点・評価項目をキネマティクスデータから検討する	日本体育測定評価学会大会シンポジウム	2014年3月	奈良

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

<u>広沢正孝</u>	発達障害者のこころの理解ー成人の高機能 ASD(PDD)者を中心に	平成 25 年度日本臨床心理士会定例研修会Ⅱ(大阪)	2014 年 2 月	大阪
<u>青木和浩</u>	発育・発達・老化とスポーツプログラム	平成 25 年度葛飾区スポーツ指導員養成講習会	2014 年 2 月	東京
<u>飯嶋正博</u>	「泳ぐ前(泳ぎを覚える前に)大切なこと」講演と実技指導	児童デイサービス 桑の木プール教室	2012 年 8 月	群馬
<u>飯嶋正博</u>	「不器用な子どもの動きづくり」講演と実技指導	児童デイサービス 桑の木プール教室	2012 年 8 月	神戸
<u>飯嶋正博</u>	「障害のある児童生徒の動きづくり」実技研修	市川市特別支援教育研究連盟夏季研修会	2012 年 8 月	千葉
<u>飯嶋正博</u>	「身体づくりとリラクゼーションー動作法の視点にもとづくアプローチー発達障害のある子の「感覚」への支援ー本人への働きかけと環境設定ー	発達協会秋のセミナー	2011 年 10 月	東京
<u>飯嶋正博</u>	「発達障害のある子への運動あそびの工夫～実践を通して～」	平成 23 年度自閉症対策事業実技研修	2011 年 10 月	福井
<u>飯嶋正博</u>	「遊びを通して親子の関わりの育み方」	大田区立こども発達センターわかばの家保護者向け講演会	2011 年 9 月	東京
<u>飯嶋正博</u>	「不器用なこどもへの関わり方について」	大田区立こども発達センターわかばの家	2011 年 9 月	東京
<u>飯嶋正博</u>	「重度障害児の身体づくり」実技指導	「知的障害児の運動・動作, 体育指導について」実技研修	2011 年 8 月	千葉
<u>飯嶋正博</u>	「ダウン症児へのプール指導」実技指導	かりんの会	2011 年 8 月	千葉
<u>飯嶋正博</u>	「障害児へのプール指導」実技指導	ひなの会	2011 年 8 月	千葉
<u>飯嶋正博</u>	「不器用さのある児童への運動指導」講演・実技研修	東京都公立房総養護学園学校研究協議会	2011 年 8 月	千葉
<u>飯嶋正博</u>	「運動や遊びを通じた動きづくりの方法」	東京都立あきる野学園全校研修会	2011 年 8 月	東京
<u>飯嶋正博</u>	「日常生活に必要な動きづくり」	自立活動研修会	2011 年 8 月	埼玉
<u>飯嶋正博</u>	「ダウン 症児のための動作法」	千葉たんぽぽの会	2011 年 7 月	千葉

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

飯嶋正博	「ダウン症児へのプール指導」実技指導	たけのこの会	2011年7月	埼玉
飯嶋正博	身体の動きの指導—児童生徒の姿勢の取り方, 動作の見方等の指導スキルについて—	実技指導 自立活動部基礎研修	2011年6月	千葉

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

「研究成果の活用について、具体的な見通しを示されたい」

「選定時」に付された留意事項への対応

スポーツ庁、厚生労働省などにおいても未だ手つかずの状態となっている「発育発達期の必要運動量」の策定や、子どものスポーツ振興政策の根拠や、また、日本学術会議や体育学・スポーツ科学関連団体などにおける子どもの体力や健康づくりに関する提言等において、本研究プロジェクト拠点で明らかとなったエビデンスが、積極的に引用、活用されるように論文、図書、学会などにその成果を事業終了後も引き続き公表していく。さらに、本拠点メンバーには、国レベルでの子どもの運動や健康に関わるガイドライン策定に関わるものも多く含まれるため、年齢・性別・障害の有無、さらにスポーツ種目別などに対象者の特性を細かく分類し、運動習慣形成や健康づくりに必要なことから、特に青少年の運動の最低必要量と、使い過ぎ(オーバーユース)障害予防の観点からの上限値設定など、それらの具体的な数値指標の策定時に必要となるローデータの整理およびデータベースの構築を継続し、指針策定時に活用できる体制を整備している。

その他、ホームページや関連一般図書、DVD教材、また本学主催または本拠点メンバーのみならずトップアスリートの協力を得て実施する公開講座や講習会などにおいて、本研究の成果を一般の人たちに分かりやすい形で理解してもらえるような啓蒙資料として本拠点で得られた成果を活用していく。

<「中間評価時」に付された留意事項>

- ① 「80人を数える大人数の研究組織のわりには、学術的成果の発表数がやや少ないのではないかという印象を受ける。実践的活動へのフィードバック・参加ばかりでなく、学術的新知見の創出にも努められたい。」
- ② 「研究成果がわかりやすい形で公表・周知されていくことを期待しています。」

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

- ① メンバー数から見ると学術的成果の発表数が必ずしも十分ではないとの評価を受けたが、本研究テーマは、メンバーが協力してチームを編成して取り組むことが多いこともその一因であったが、中間評価後は、成果を実践的活動にフィードバックするだけでなく、学術的ものとして成果を残すために積極的に論文、図書、研究発表の形で発表することに心がけた。その結果、学術的成果の発表数は大幅な増加を示した。また、今後も研究を継続し、発展的に研究を推進させていくテーマも数多く、オリジナリティの高い学術的成果発表を今後も学術論文などに多数発表していく予定である。
- ② 今後も引き続き、HPでの公開やシンポジウムを開催し、一般の人たちにも分かりやすい形で成果の公表を行っていく予定である。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101008

17 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 23 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	24,240	8,080	16,160	0	0	0	
	研究費	59,065	30,411	28,654	0	0	0	うち一般補助6,657
平成 24 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	59,856	30,262	29,594	0	0	0	うち一般補助4,648
平成 25 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	76,853	43,977	32,876	0	0	0	うち一般補助5,346
平成 26 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	87,797	50,061	37,736	0	0	0	うち一般補助8,596
平成 27 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	62,772	35,815	26,957	0	0	0	うち一般補助7,315
総 額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	24,240	8,080	16,160	0	0	0	
	研究費	346,343	190,526	155,817	0	0	0	
総 計	370,583	198,606	171,977	0	0	0		

法人番号

131025

18 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）

《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
スポーツ健康医科学研究所	H18	1821m ²	26	144	372,720	186,360	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

1,821 m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）

（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)							
等速性筋力測定システム	H23年度		1	100	12,000	8,000	私学助成
無線式筋電図計測装置	H23年度		1	756	12,240	8,160	私学助成
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

19 研究費の支出状況

（千円）

年 度	平成 23 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	20,240	実験材料	20,240
通 信 運 搬 費	0	運搬・郵送	0
報 酬 ・ 委 託 料	2,699	委託	2,699
修 繕 費	1,729	修繕	1,729
計	24,668		24,668
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)			
教 育 研 究 経 費 支 出			
計	0		0
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	16,796		16,796
図 書			
計	16,796		16,796
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	4,800		4,800
ポスト・ドクター	12,801		12,801
研究支援推進経費	0		0
計	17,601		17,601

法人番号

131025

(千円)

年 度	平成 24 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	26,347	実験材料	26,347
通 信 運 搬 費	142	運搬・郵送	142
印 刷 製 本 費	908	調査票印刷	908
旅 費 交 通 費	882	研究発表	882
報 酬 ・ 委 託 料	9,411	委託・保守	9,411
会 議 費 ・ 修 繕 費 他	1,670	会議費、修繕費他	1,670
計	39,360		39,360
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	321		321
教育研究経費支出			
計	321		321
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	8,589		8,589
図 書			
計	8,589		8,589
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	6,000		6,000
ポスト・ドクター	5,586		5,586
研究支援推進経費	0		0
計	11,586		11,586

法人番号

131025

(千円)

年 度	平成 25 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	26,403	実験材料	26,403
通 信 運 搬 費	619	運搬・郵送	619
印 刷 製 本 費	861	調査票印刷	861
旅 費 交 通 費	1,302	研究発表	1,302
報 酬 ・ 委 託 料	12,928	委託・保守	12,928
謝 金	1,992	調査謝金	1,992
修 繕 費 他	1,823	修繕	1,823
計	45,928		45,928
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	1,028		1,028
教育研究経費支出			
計	1,028		1,028
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	14,773		14,773
図 書			
計	14,773		14,773
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	8,927		8,927
ポスト・ドクター	6,197		6,197
研究支援推進経費	0		0
計	15,124		15,124

実人数 2人(研究補助員)

時給 950円、年間時間数 658時間

時給1,050円、年間時間数 380時間

学内8人

学内2人

学内10人

法人番号

131025

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	20,192	実験材料	20,192
通 信 運 搬 費	336	運搬・郵送	336
印 刷 製 本 費	69	調査票印刷	69
旅 費 交 通 費	987	研究発表	987
報 酬 ・ 委 託 料	8,596	委託・保守	8,596
謝 金	1,135	調査謝金	1,135
修 繕 費 他	9,494	修繕	9,494
計	40,809		40,809
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	465		465
教育研究経費支出			
計	465		465
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	19,979		19,979
図 書			
計	19,979		19,979
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	11,348		11,348
ポスト・ドクター	15,196		15,196
研究支援推進経費	0		0
計	26,544		26,544

学内9人

学内4人

学内13人

法人番号

131025

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	28,028	実験材料	28,028
通 信 運 搬 費	119	運搬・郵送	119
印 刷 製 本 費	655	チラシ・リーフレット	655
旅 費 交 通 費	2,263	国際シンポジウム	2,263
報 酬 ・ 委 託 料	5,169	委託・保守	5,169
謝 金	1,938	国際シンポジウム	1,938
修 繕 費 他	2,427	修繕	2,427
計	40,599		40,599
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	581		581
教育研究経費支出			
計	581		581
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	9,260		9,260
ポスト・ドクター	12,332		12,332
研究支援推進経費	0		0
計	21,592		21,592

学内7人

学内4人

学内11人